

別添1（第2の3の（2）のイ関係）

〇〇年産業務実施規程（業務実施方針）

年 月 日

実施要領別紙3のⅣの第2の1の果汁特別調整保管等対策事業の実施に関し、以下のとおり業務実施規程（又は業務実施方針）を定める。

1 対象果実

2 実施時期

〇〇年〇月〇日から〇〇年〇月〇日まで

3 実施方法

- （1）事業の内容
- （2）事業実施者
- （3）補助対象経費
- （4）補助条件

4 経費

5 その他

別添2（第2の5の（3）のア関係）

年 月 日

農林水産省農産局長 殿

住 所
応募団体名称
代表者氏名

○年度○○○事業及び○○○事業実施計画書

○年度○○○事業及び○○○事業を実施したいので、関係書類を添えて計画書を提出する。

（注）別添の事業実施計画書については、以下の事業ごとに作成すること。

- ① ○○○事業
- ② ○○○事業
- ③ ○○○事業
- ④ ○○○事業
- ⑤ ○○○事業
- ⑥ ○○○事業

事業実施計画書

事業名：

1 事業の概要

(1) 事業目的及び趣旨
(2) 事業内容
(3) 事業の成果目標と根拠 ①成果目標 ・ ・ ・ ②目標の根拠（①を目標とする理由及び目標数値の設定根拠を記入） ・ ・ ・
(4) 事業実施体制及び事業実施者等との協力体制

2 事業の効果

(1) 事業の成果と活用、波及効果

3 事業内容

取組項目	目的	内容 (手法、時期、対象者など)	活動指標 (箇所数、回数、参加者数など)

4 効果測定

事業成果目標	効果の測定方法

(注) 効果の測定方法は、事業目標の達成度を測る具体的な手法を記入すること。

5 事業効果

事業成果	成果の活用、波及効果等

(注) 想定される事業成果及びその活用、波及効果等について記入すること。

6 事業成果の公表

方法	公表時期	公表内容	備考

(注) 公表の方法、時期及び内容を簡潔に記入すること。

7 事業の委託

委託する事業の内容及びそれに要する経費	
委託先	
委託する理由	

(注) 委託する理由には、委託することが必要かつ合理的・効果的であることを明確に記入すること。

8 経費

取組項目	事業費 (千円)	うち国費 (千円)	備考
合 計			

(注) 3 「事業内容」に記入した取組項目ごとに記入すること。

9 事業の構図等

提案事業全体の流れが分かる構図等をA4サイズ2枚以内に整理して添付すること

(注) 提案事業の戦略(方向性)、戦術(方法・施策)、目標数値及び連携団体等の役割など、それぞれの関係性や流れを分かりやすく図示したものとすること。

〇〇年度 果樹経営支援対策整備事業実施計画(兼実績報告)兼果樹未収益期間支援事業対象者申告書(兼確定報告)

都道府県名	産地協議会名

I 農業者の概要

農業者氏名	農業者住所	農業者の位置づけ	果樹未収益期間支援事業対象者申告(確定報告)欄
		担い手 ・ その他	

- (注) 1 生産者組織(特認団体も含む)が事業を実施する場合、「農業者氏名」の欄には代表者名を、「農業者住所」の欄には代表者等の住所を記入すること。
 2 実施要領 別紙3のIの第1の2(8)のAに該当する場合、「果樹未収益期間支援事業対象者申告(確定申告)」の欄に「○」を記入すること。
 3 農地中間管理機構が事業を実施する場合、「農業者」とあるのは、「農地中間管理機構」と読み替えるものとし、「農業者の氏名」の欄には当該農地中間管理機構の名称及び代表者名を、「農業者住所」の欄には、当該農地中間管理機構の所在地の住所をそれぞれ記入し、「農業者の位置づけ」の欄にはその他に「○」を付すこと。

II 経営支援対策整備事業の事業計画(実績)

園地番号	園地の所在地	転換元(現況)		転換先		計画面積(受益面積)		事業量	事業費(定率助成事業)		助成単価(定額助成事業)	補助金		補助率	事業着工(予定)年月日	事業完了(予定)年月日	備考	
		品目(品種名)	品目(品種名)	事業内容	当該年度完了(予定)分	次年度完了(予定)分	当該年度完了(予定)分		次年度完了(予定)分	当該年度完了(予定)分		次年度完了(予定)分						
(特認事業を実施する理由)																		
1					優良品目・品種への転換	(改植)	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
						(新植)	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
						(高接)	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
						小規模園地整備	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
						放任園地発生防止対策	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
						用水・かん水施設の整備	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
指定法人特認事業						m	m		円	円	円/m	円	円	円				
小						計			円	円	円	円	円					
(特認事業を実施する理由)																		
2					優良品目・品種への転換	(改植)	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
						(新植)	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
						(高接)	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
						小規模園地整備	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
						放任園地発生防止対策	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
						用水・かん水施設の整備	m	m		円	円	円/m	円	円	円			
指定法人特認事業						m	m		円	円	円/m	円	円	円				
小						計			円	円	円	円	円					
合	計	事業実施園地数																
		優良品目・品種への転換	(改植)	[園地]	m	m		円	円	円	円	円	円	円	円			
			(新植)	[園地]	m	m		円	円	円	円	円	円	円	円			
			(高接)	[園地]	m	m		円	円	円	円	円	円	円	円			
		小規模園地整備	[園地]	m	m		円	円	円	円	円	円	円	円	円			
		放任園地発生防止対策	[園地]	m	m		円	円	円	円	円	円	円	円	円			
		用水・かん水施設の整備	[園地]	m	m		円	円	円	円	円	円	円	円	円			
		指定法人特認事業	[園地]	m	m		円	円	円	円	円	円	円	円	円			
果樹未収益期間支援事業の対象となる改植	[園地]	m	m		円	円	円	円	円	円	円	円	円					

- (注) 1 「転換元(現況)」、「転換先」の欄については、「事業内容」が優良品目・品種への転換もしくは優良品目・品種への転換と同時に小規模園地整備、用水・かん水施設の整備を実施する場合、「転換元(現況)」、「転換先」の欄にそれぞれの品目及び品種を記入すること。小規模園地整備、用水・かん水施設の整備のみを実施する場合(優良品目・品種への転換と同時に実施しない場合)は、「転換元(現況)」の欄にその品目及び品種を記入すること。
- なお、品目を記入する場合、うんしゅうみかんでは、極早生・早生・普通の別を、りんごでは普通栽培・わい化栽培の別を区分して記入すること。
また、放任園地発生防止対策を実施する場合は、「転換元(現況)」の欄にその品目及び品種、「跡地利用」の欄に該当する作目名等を記入すること。
- 2 「事業内容」の欄については、小規模園地整備を実施する場合は、()書で「園内道の整備」、「傾斜の緩和」、「土壌土層改良」、「排水路の整備」のいずれかを記入すること。また、放任園地発生防止対策を実施する場合は、経営移譲年金の受給権取得条件や相続税及び贈与税の納税猶予条件等に十分留意すること。
- 3 「事業内容」の[]書は、本事業により整備する(した)園地数を記入すること。
- 4 「事業完了(予定)年月日」の欄には、産地協議会が都道府県法人等に対して「果樹経営支援対策事業実績(及び果樹未収益期間支援事業対象者確定)報告兼補助金支払請求書」を提出する年月日を記入すること。
- 5 「計画面積(受益面積)」、「事業費(定率補助事業)」及び「補助金」の欄の「当該年度完了(予定)分」及び「次年度完了(予定)分」の区分については、次のとおりとすること。
①「事業完了(予定)年月日」が申請年の12月31日までの取組は、「当該年度完了(予定)分」の欄に記入。
②「事業完了(予定)年月日」が申請年の翌年の1月1日以降の取組は、「次年度完了(予定)分」の欄に記入。
- 6 「事業量」の欄については、優良品目・品種への転換(改植・新植)を実施する場合は、植栽する苗木の本数を、高接を実施する場合は、穂木の重量を、小規模園地整備(園内道の整備)を実施する場合は、延長、幅員を記入するなど、事業内容に応じた事業量を記入すること。
- 7 補助率が定率助成のものは「事業費(定率助成事業)」の欄に事業費を、補助率が定額助成のものについては「助成単価(定額助成事業)」の欄に助成単価を記入すること。
- 8 「果樹未収益期間支援事業の対象となる改植・新植」の計画面積(受益面積)の欄には、同一年度内に完了する改植・新植面積が果樹未収益期間支援事業の下限面積(業務方法書に定める面積)以上の場合に記入し、補助金の欄には(面積×業務方法書に定める単価/10a×4年間)を記入すること。
- 9 1園地で複数の事業内容を実施し、現行の様式で行が不足する場合は、必要に応じて行を追加すること。
- 10 備考欄には、仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には「除税額〇〇円 うち補助金〇〇円」を、同額がない場合には「該当なし」と、同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記入するとともに、同税額を減額した場合には小計及び合計の欄の備考の欄に合計額(「除税額〇〇円 うち補助金〇〇円」)を記入すること。
- 11 計画を変更する場合又は計画と実績が異なる場合、変更前(計画)と変更後(実績)を対比できるように、数値が異なる部分についてのみ変更前(計画)を括弧書きで上段に記入するとともに、合計の欄において変更前(計画)の数値、変更後(実績)の数値及び差額をそれぞれ三段書きで記入する。

園地 番号	跡地利用	園地集積		園地の 所有者	特例 農地	出作地
		集積時期	集積先(担い手)氏名			
		年 月				
		年 月				
		年 月				

- (注) 1 この表は、放任園地発生防止対策を実施する場合、または担い手以外の者が優良品目・品種への転換を実施する場合に記入すること。
- 2 放任園地発生防止対策を実施する場合は、植林等を行う作目名を「跡地利用」の欄に記入すること。
- 3 「集積時期」の欄は、担い手に園地を集積する場合、その予定時期を、「集積先氏名」の欄は集積先の担い手の氏名を記入すること。
- 4 転換等を実施しようとする果樹園の所有者が、転換計画作成者と異なる場合は、所有者の氏名を「園地の所有者」欄に記入すること。
- 5 現在、植栽されている品目・品種を伐採する果樹園が、農地に係る相続税の納税猶予制度又は生前一括贈与に係る贈与税の納税猶予の適用を受けている農地である場合は「特例農地」の欄に○印を記入すること。
- 6 農業者の住所地を管轄する産地協議会の区域外に当該果樹園がある場合、その所在地を管轄する産地協議会(生産出荷団体、市町村)の名称等を「出作地」の欄に記入すること。

Ⅲ 添付資料

- (1) 事業実施園の配置図
- (2) 見積書(契約書)等

別添4-2(Iの第1の1(6)のア関係)

〇〇年度 果樹経営支援対策推進事業実施計画(兼実施報告)

都道府県名: _____

支援対象者: _____

第1 事業計画総括表

事業種目名	事業内容	事業量	事業費	補助金	備考
大苗育苗ほの設置			円 円 円 円	円 円 円 円	
合 計			円	円	

(注) 備考欄には、仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には「除税額〇〇円 うち補助金〇〇円」を、同税額がない場合には「該当なし」と、同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記入するとともに、同税額を減額した場合には小計及び合計の欄の備考の欄に合計額(「除税額〇〇円 うち補助金〇〇円」)を記入すること。

第2 事業の実施方針

・地域の農業生産の概要

・事業実施の必要性及び目的

第3 事業の内容

大苗育苗ほの設置

・現状の状況

(問題点・課題を含めて記入すること。)

・目指すべき目標

(いつまでにどのような目標(数値化)を達成するのか具体的に記入すること。)

(1)大苗育苗ほの設置

設置場所	設置面積 ㎡	大苗育苗する品目(品種:)		育苗する本数 本	管理主体	苗の配布(予定)農家数 戸	必要な経費		備考
		()	()				円	うち消費税 円	
			()				円	円	
			()				円	円	
							円	円	
合 計							円	円	

- (注) 1 大苗育苗ほで育苗する品目(品種)はすべて記入すること。
2 「必要な経費」の欄は、ほ場借上費、苗木購入費等について、当該経費別に事業費を記入すること。

(2)母樹園の設置

設置場所	設置面積 ㎡	母樹の品目(品種:)		母樹として栽植する本数 本	管理主体	穂の配布(予定)農家数 戸	必要な経費		備考
		()	()				円	うち消費税 円	
			()				円	円	
			()				円	円	
							円	円	
合 計							円	円	

- (注) 1 母樹として栽植する品目(品種)はすべて記入すること。
2 「必要な経費」の欄は、ほ場借上費、母樹購入費等について、当該経費別に事業費を記入すること。

(3)その他()

						必要な経費		備考
						円	うち消費税 円	
						円	円	
						円	円	
						円	円	
合 計						円	円	

- (注) (1)~(2)の内容に該当しないものについては、(3)に必要な項目、その内容を記入すること。

第4 添付資料

- 1 果樹産地構造改革計画
- 2 実施要件を満たしていることがわかる資料(果樹共済加入推進協議会等の議事録等)
- 3 実績報告の際には、事業の実施状況が分かる資料を添付すること。

別添4-3 (Iの第1の1(6)のア関係)

番 号
年 月 日

社団法人〇〇県(道)果実生産出荷安定基金協会
理事長 殿
(〇〇〇産地協議会経由)

住 所
〇〇〇生産出荷組合
代表理事組合長

果樹経営支援対策事業実施計画(及び果樹未収益期間支援事業対象者)の
(変更)承認申請について

貴協会の業務方法書第〇条に基づき、果樹経営支援対策事業実施計画(及び果樹未収益期間支援事業対象者)について関係書類を添えて(変更)承認申請します。

(注)別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 支援対象者から提出された果樹経営支援対策整備事業実施計画兼果樹未収益期間支援事業対象者申告書(別添4-1)
- 2 支援対象者の住所地を区域内にもつ産地協議会が策定した果樹産地構造改革計画
- 3 2の果樹産地構造改革計画の承認文書
- 4 産地協議会の事前確認報告書

※果樹経営支援対策推進事業実施計画の(変更)承認申請も、この様式に準じる。

別添 4-4-1 (I の第 1 の 1 (7) のア (ア) 関係)

(支援対象者が直接提出する場合)

果樹経営支援対策事業 (及び果樹未収益期間支援事業) 補助金 (変更) 交付申請書

年 月 日

社団法人〇〇県(道)果実生産出荷安定基金協会
理事長 殿

住所
氏名

貴協会の業務方法書第〇条に基づき、果樹経営支援対策事業 (及び果樹未収益期間支援事業) 補助金 円を交付されたく関係書類を添えて (変更) 申請します。

(注) 別添書類として、果樹経営支援対策整備事業実施計画兼果樹未収益期間支援事業対象者申告書 (別添 4-1 号) の写しを添付する。

※果樹経営支援対策推進事業の補助金 (変更) 交付申請も、この様式に準じる。

別添 4 - 4 - 2

生産出荷団体が支援対象者から委任を受けて代理申請する場合

年 月 日

社団法人〇〇県(道)果実生産出荷安定基金協会
理事長 殿

住 所
〇〇〇生産出荷組合
代表理事組合長

果樹経営支援対策事業（及び果樹未収益期間支援事業）補助金（変更）交付申請書

貴協会の業務方法書第〇条に基づき、果樹経営支援対策事業（及び果樹未収益期間支援事業）補助金 円を交付されたく下記のとおり関係書類を添えて（変更）申請します。

記

- 1 支援対象者からの果樹経営支援対策事業（及び果樹未収益期間支援事業）補助金の受領に関する権限の委任を証する書面・・・別紙 1
- 2 支援対象者別の果樹経営支援対策整備事業及び果樹未収益期間支援事業補助金明細書・・・別紙 2

- (注) 1 農業協同組合長等がその他の農業者が組織する団体の委任を受けて代理申請する場合は、本様式の別紙に準じた実施計画、同意書及び支援対象者別明細書を添付する。
- 2 別添書類として、果樹経営支援対策整備事業実施計画兼果樹未収益期間支援事業対象者申告書（別添 4 - 1）の写しを添付する。

別添4-5 (Iの第1の1(8)のA関係)

番 号
年 月 日

社団法人〇〇県(道)果実生産出荷安定基金協会
理事長 殿
(〇〇産地協議会経由)

住 所
〇〇〇生産出荷組合
組 合 長 理 事

果樹経営支援対策事業実績(及び果樹未収益期間支援事業対象者確定)報告
兼補助金支払請求書

実施要領別紙3のIの第1の1(8)のA(及び2(8)のA)、〇〇業務方法書及び貴協会の業務方法書に基づき、果樹経営支援対策事業の実績(及び果樹未収益期間支援事業対象者の確定)について別添のとおり報告します。

なお、併せて、補助金 〇〇〇〇〇〇 円の支払を請求します。

※(また、請求のとおり支払われるときには、受領代理人〇〇(例えば、県信用農業協同組合連合会理事〇〇)あて支払われたく申し添えます。)

(注) 1 別添書類として以下のものの写しを添付する。

- (1) 果樹経営支援対策整備事業実績報告兼果樹未収益期間支援事業対象者確定報告(別添4-1)
- (2) 果樹経営支援対策推進事業実績報告(別添4-2)
- (3) 果樹経営支援対策事業に係る事後確認報告書

2 果樹経営支援対策事業補助金の受領に関する権限と受領以外に関する権限とが異なる者に委任された場合には、※の箇所に、受領に関する権限の委任を受けた者の住所及び氏名を記入する。

別添5-1 (Iの第1の3(1)シ(ア)関係)

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者氏名

○年度未来型果樹農業等推進条件整備事業補助金(変更)交付申請書

○年度において、下記のとおり事業を実施したいので、貴協会の業務方法書第○条に基づき、未来型果樹農業等推進条件整備事業補助金 円の交付を申請する。

記

- 1 事業の目的及び内容
- 2 経費の配分

区分	補助事業に 要する経費	負担区分		備考
		国(本年度国 庫補助金)	自己負担	
未来型果樹農業等推進条件 整備事業	円	円	円	
計				

注 備考欄には、消費税仕入れ控除税額について、これを減額した場合には「除税額○○○円うち国費○○○円」を、同税額がない場合には「該当なし」と同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記載すること。

- 3 事業完了予定年月日(又は事業完了年月日)
年 月 日

- 4 収支予算額(又は収支精算額)

(1)収入の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	円
自己負担金					
計					

(2) 支出の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
未来型果樹農業等推 進条件整備事業	円	円	円	円	円
計					

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添書類として、未来型果樹農業等推進条件整備事業実施計画（別添5－1別添1又は2）の写しを添付する。

なお、計画承認の事業内容から変更がある場合には、計画承認を受けた計画書の変更箇所を加筆修正（変更前を上段括弧で二段書）した該当資料ページを添付して提出すること。

- 2 その他必要な書類

果樹農業生産力増強総合対策

未来型果樹農業等推進条件整備事業
(新産地育成型・既存産地改良型)
実施計画(兼実績報告)書

都道府県名：

策定年度：

_____年度

目標年度：

_____年度

支援対象者名：

対象地域：

実施する取組(該当するものを○で囲む)：

新産地育成型 ・ 既存産地改良型

第1 事業実施体制

支援対象者名	
産地協議会名	
代表者名	
産地協議会の構成員	J A O O、〇〇市農業委員会、〇〇共済組合、農業生産法人〇〇、農地中間管理機構
事務局	J A O O
担当者：	
住所：	
電話番号：	
e-mailアドレス：	
関係機関による支援体制	都道府県、都道府県農業試験場、普及指導センター、市町村 等

第2 産地の概要

1 産地の概要

--

注 果樹の栽培、出荷状況、担い手の確保、労働力の確保等産地の現状と課題を記載すること。

2 栽培面積

(ha)

品目・品種	事業実施年度 又は前年度の面積	産地計画の目標設定年度の 目標面積（〇年度）

第3 本事業とは別の国費や県費等が投入された基盤整備事業との関連概要（※ 該当がある場合に記載）

新産地育成型の例）平成〇年度着工の〇〇地区での〇〇事業により、水田〇〇haが標準区画〇〇haに大区画化され、また、用排水路のパイプライン化とほ場内耕作道の設置により、ほ場間の移動をスムーズに行うことが可能な基盤が整備されている。本事業では、これに加え、令和〇年度までに〇〇（品目名）の省力樹形・機械作業体系を導入し、労働生産性を抜本的に高めたモデル産地の実現及び水田の高収益化を図る。

第4 事業実施方針

例) 基盤整備実施と並行し、りんご・なしの新植の準備として、早期成園化のための大苗を育成する。基盤整備が完了した園地から順次、新植を実施する。成園化までの間、幼木の管理作業を実施する。また、省力樹形の管理技術、作業機械の操作方法等を習得するための研修に取り組む。

第5 目標年度までの事業実施計画

1 目標年度

年度

2 目標年度までの本事業の実施面積

本事業を実施する園地の場所	実施面積 (ha)	管理主体

注 目標年度までに、省力樹形又は整列樹形のいずれか及び機械作業体系を導入する面積について記載すること。

3 省力樹形又は整列樹形を導入する品目・品種

例) りんごの超高密植（ツールスピンドル）栽培、うんしゅうみかんの慣行栽培の整列樹形

注 本事業で取り組む品目、品種を記載すること。

4 導入する機械作業体系

例) スピードプレイヤー、高所作業台車

注 本事業で導入する作業機械を記載すること。

5 導入する省力樹形（整列樹形）・機械作業体系により期待できる効果

注 導入する省力樹形（整列樹形）・機械作業体系の概要及び効果について分かる資料を添付すること。

6 目標年度までの事業実施計画

(1) 基盤整備事業

単位：ha、千円

区 分	1年目 (事業開始年度)	○年目 (事業終了年度)	合 計
実施面積			
総事業費			
国庫補助金額			
自己負担額			

(2) 未来型果樹農業等推進条件整備事業（新産地育成型・既存産地改良型）

① 園地整備等の取組

単位：ha、千円

区 分		1年目 (事業開始年度)	○年目	○年目	○年目	○年目 (目標年度)	合 計
小規模 園地整備 取組内容： ()	支援対象面積						
	総事業費						
	国庫補助金額						
	自己負担額						
新 植 ／ 改 植	品目・品種名： ()	支援対象面積					
		国庫補助金額					
	品目・品種名： ()	支援対象面積					
		国庫補助金額					
用水・ かん水 施設の整備	支援対象面積						
	総事業費						
	国庫補助金額						
	自己負担額						
特認事業 取組内容： ()	支援対象面積						
	総事業費						
	国庫補助金額						
	自己負担額						
未収益期間 支援	支援対象面積						
	国庫補助金額						

注1：目標年度は、新植又は改植を行った年度の翌年度から起算して8年以内とすること。

注2：事業開始年度は、②の未来型果樹農業等推進条件整備事業の事業開始年度と同一年度とすること。

注3：小規模園地整備を実施する場合は、取組内容の（ ）内に「園内道の整備」、「傾斜の緩和」、「土壌土層改良」、「排水路の整備」のいずれかを記入すること。

注4：事業実施主体特認事業を実施する場合は、取組内容の（ ）内に当該特認事業の名称を記入すること。

② 早期成園化、経営継続・発展、機械・設備導入の取組

区 分		1年目 (事業開始年度)	○年目	○年目	○年目	○年目 (目標年度)	合 計
早期成園化、 発展に係る取組 ・ 経営の継続 ・	大苗 の 育成	育苗ほの面積					
		支援対象面積					
		国庫補助金額					
	代替農地での 営農	営農面積					
		支援対象面積					
		国庫補助金額					
	省力技術 研修	支援対象面積					
		国庫補助金額					
	機械・施設 等導入、 機械・施設 リース導入 導入内容： ()	支援対象面積					
総事業費							
国庫補助金額							
自己負担額							

注：未収益期間支援、大苗の育成、代替農地での営農及び省力技術研修に係る補助金額については、事業開始年度から目標年度までの新植・改植面積の合計を基に算出すること。

7 成果目標値（事業により整備する園地における、10a当たりの作業時間当たり収穫量の向上）

	作業時間 当たり収穫量	事後評価の検証方法（※定量的な検証ができること。）
基準年（a）（○年度）		
事業実施年（○年度）		
○年目（b）（○年度）		
	達成率(a/b)%	
○年目（c）（○年度）		
	達成率(a/c)%	
目標（d）（○年度）		
	達成率(a/d)%	

注1 単位は「t/時間」とし、現状値からの向上を図ることとする。

- 2 実績及び達成状況の算出根拠となる資料を添付すること（事業により整備した園地における作業時間当たり収穫量、県・市町村の経営指標、試験場のデータ等）。
- 3 育成期間中であり、収穫作業が発生しない年度は記載不要。
- 4 必要に応じて年度の欄は追加すること。

第6 本年度の申請・取組内容

1 園地整備等の取組

添付「未来型果樹農業等推進条件整備事業（新産地育成型・既存産地改良型）のうち園地整備等の取組計画（兼実績報告）」のとおり。

注：添付様式は「別添4-1」を準用すること（ただし、様式のうち「放任園地発生防止対策」欄は削除する）。

2 早期成園化や経営の継続・発展に係る取組

(1) 大苗の育成

対象品目名	対象面積 (新植・改植面積を 上限)	補助金額 (対象面積×20万円 /10a)	備考
	ha	円	
計			

注：備考欄には、仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には「減額した金額」を、同税額がない場合は「該当なし」と、同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記入すること（以下1及び2（1）において同じ）。

(2) 代替農地での営農

対象品目名 (代替農地で取り 組む品目)	改植面積 (A)	改植により 途絶する収益(B)	代替農地での 目標収益(C)	対象面積 (A)*((C)/(B)) (改植面積 を上限)	補助金額 (対象面積× 28万円/10a)	備考
	ha	円	円	ha	円	
計						

注：「改植により途絶する収益」及び「代替農地での目標収益」について、裏付けとなる参考データを添付すること。

(3) 省力技術の研修

取組（技術導入調 査・講習会等）	対象面積 (改植面積の うち省力技術を 導入する面積)	補助金額 (対象面積× 3万円/10a)	備考
	ha	円	
計			

注：省力技術の導入に向けて、産地における現状と課題、目指すべき目標を整理した資料を添付すること。

3 機械・施設等の導入、機械・施設のリース導入

(1) リース導入に必要な費用

リース期間	内容	リースする機械・施設 (能力、台数)等	必要な経費		備考
			うち国費	その他	
			円	円	円
合 計			円	円	円

(2) リース内容

品目名	機械・施設名	仕 様 製造会社名 型 式	台数	管理者	保管・設置場所	備 考

注 対象機械が複数ある場合には、適宜、行を追加して機械ごとに記載すること。

(3) 農業機械・施設をリースする場合の対象機械の決定の根拠

機械名	リース物件価格（千円）	リースする機械の選定理由及び規模決定の根拠	備考

注1 「リース物件価格（千円）」の欄には、リースする農業機械の販売業者により設定されている小売希望価格（設定されていない場合は一般的な実勢価格（税抜価格））を記載すること。

注2 「リースする機械の選定理由及び規模決定の根拠」の欄の「規模決定の根拠」では農業機械の能力を決定（導入する機械の能力、台数、単価等）した計算過程をその根拠となる機械の能力等の具体的な数値を用いて記載すること。

(4) リース機械の納入業者の選定方法の計画

入札方式（いずれかに○）	指名業者選定の考え方	備考
一般競争入札 ・ 指名競争入札		

注 「指名業者選定の考え方」の欄は、一般競争入札以外の選定方法で業者を選定した場合、記載すること。

(5) 農業機械のリース料等

リース期間	開始月～終了月（※1）	年	月	～	年	月	（月）	備考	
	リース借受日から○年間（※2）								（年）
リース物件取得予定価格（消費税抜き）	①							（円）	
リース期間終了後の残存価格（消費税抜き）	②							（円）	
リース料助成申請額	③							（円）	
リース諸費用（消費税抜き）	④							（円）	
消費税	⑤							（円）	
事業実施主体負担リース料（消費税込み）①－②－③＋④＋⑤							（円）		
リース料助成申請額③は、下記の算式のいずれか小さい額を記入すること（使用した算式に○を記入すること）。									
I $\text{リース物件価格} \times \text{リース期間} / \text{耐用年数} \times 1/2$				II $(\text{リース物件価格} - \text{残存価格}) \times 1/2$					

- 注1 ※1及び※2については、いずれかを記入すること。
 2 リース事業者の見積書の写し（実績報告では契約書の写し）等を添付すること。
 3 複数の農業機械をリース導入する場合、表を追加し、機械ごとに記載すること。
 4 別紙のチェック票を添付すること。

(6) その他機械・施設、資材の導入

導入する機械・施設、資材	事業費	負担区分			備考
		国庫補助	自己負担	その他	
	円	円	円	円	
合計					

注1 「事業費」欄には、本事業の実施に係る事業費の総額を記載すること。

2 事業費＝国庫補助＋自己負担＋その他とすること。

第7 活動評価と改善の方法

1 評価体制

(例) 協議会の下に〇〇、××、□□から構成される評価委員会を設置し、毎年度ごとに各取組の実施状況について評価を行い、代表者に報告するものとする。

2 評価に対する改善

(例) 協議会の代表者は、評価委員会に改善を要するとされた取組について、改善計画を作成するものとする。

第8 必要経費

1 経費の配分と負担区分

区分	事業費	負担区分			備考
		国庫補助	自己負担	その他	
	円	円	円	円	
1 園地整備等					
2 大苗の育成					
3 代替農地での営農					
4 省力技術研修					
5 機械・施設等の導入、機械・施設のリース導入					
合計					

注1 「事業費」欄には、本事業の実施に係る事業費の総額を記載すること。

2 1及び5については、事業費＝国庫補助＋自己負担＋その他とすること。

2 収支予算（又は精算）

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備 考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	
自己資金					
その他					
合 計					

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備 考
			増	減	
未来型果樹農業等推進条件整備事業 (うち新産地育成型・既存産地改良型)	円	円	円	円	
合 計					

注 経費積算の基礎等の根拠資料を提出すること。

第9 事業完了予定（完了）年月日

年 月 日

- 5 リース会社の選定はどのように行いましたか。
- ① 従来から利用しているリース会社を選定した
 - ② 複数社のリース手数料を確認して割安な会社を選定した
 - ③ JA等から斡旋されたリース会社を選定した
 - ④ 近隣に営業所があるリース会社を選定した
 - ⑤ その他 ()
- 6 リース手数料の内容について、リース会社から説明を受けましたか。
- ① 受けた
 - ② 受けていない
- 7 リース手数料について、引き下げ交渉を行いましたか。
- ① 引き下げ交渉は行っていない
 - ② 引き下げ交渉を行い、当初の提示よりも引き下げてもらった
 - ③ 引き下げ交渉を行ったが、当初の提示どおりだった

～以下は購入先の販売店から聞き取って記入してください。～

- 8 導入する農業機械の定価及び平均的な販売価格（実売価格、本体部分のみ、税抜き）、入札・相見積もり時の価格が実売価格と比較し、5%以上高い場合はその理由

(単位：円)

定価	実勢価格	導入価格	実売価格と比較し5%以上高い理由

果樹農業生産力増強総合対策

未来型果樹農業等推進条件整備事業
(担い手育成型)
実施計画(兼実績報告)書

都道府県名：

事業実施期間：

~

_____年度

目標年度：

_____年度

計画策定年度：

_____年度

支援対象者名：

対象地域：

第1 事業実施体制

支援対象者名 (整備園地の運用主体)	
代表者名	
担当者： 住所： 電話番号： e-mailアドレス：	
産地協議会名	
代表者名	
産地協議会の構成員	J A O O、〇〇市農業委員会、〇〇共済組合、農業生産法人〇〇、農地中間管理機構
事務局	J A O O
担当者： 住所： 電話番号： e-mailアドレス：	

第2 産地の概要

1 産地の概要

--

注 果樹の栽培、出荷状況、担い手の確保、労働力の確保等産地の現状と課題を記載すること。

2 果樹の栽培面積

(ha)

品目・品種	事業開始年度 又は前年度の面積 (〇年度)	産地計画の目標設定年度の 目標面積 (〇年度)

第3 事業実施方針

例) 産地の担い手不足解消に向け、離農希望者の園地を活用した新規就農者等を受け入れるためのトレーニングファームを整備し、就農希望者を対象に先輩農業者や外部講師による技術研修を実施する。事業実施に当たっては、就農支援機関である市役所及びJAの就農支援と一体的に取り組む。

第4 成果目標

	目標	間近過去実績		
	○年度	○年度	○年度	○年度
確保する(した) 新規就農者等の数				

注1: 「新規就農者等」とは、新規参入者、新規自営農業就農者、新規雇用就農者及び研修中の者をいう。

注2: 目標年度は、事業開始年度の3年後以内とすること。

第5 産地における新規就農者等の確保・定着に向けた取組計画

※ 支援対象者の対象地域において、新規就農者育成総合対策実施要綱（令和4年3月29日付経営第3142号農林水産事務次官依命通知）別記4 サポート体制構築事業 第5の3のサポート体制計画を策定済みであり、かつ果樹を支援対象としている場合は、当該計画を添付することで本項の記載に代えることができる。

1 新規就農者等の育成方針（就農希望者に向けたサポート内容）

--

注: 産地が求める新たな担い手像及びそうした担い手に育成するために産地が行うサポートの内容について記載すること。

2 産地のサポート体制（関係機関と役割分担）

支援分野	担当機関・部署名	支援分野	担当機関・部署名
技術・経営指導		販路支援	
農地確保支援		生活に係る支援 (住居、子育て等)	
期間・施設等の 確保支援		事務局・全体調整	
資金相談		その他(〇〇)	
農業者による指導		その他(〇〇)	

3 新規就農者等の確保の取組

--

注：新規就農者等を確保するために実施する産地の取組について記載すること。

4 本事業とは別の新規就農者等支援に係る国費等の活用実績又は予定（※ 産地において該当がある場合に記載）

事業名	事業の所管	実施年度	取組の内容

第6 目標年度までの事業実施計画及び園地の運用計画

1 事業実施計画（実績）

単位：ha、千円

区 分		○年度 (事業開始年度)	○年度	○年度	○年度 (目標年度)	合 計	備考	
小規模園地整備等	小規模園地整備 取組内容： ()	支援対象面積						
		総事業費						
		国庫補助						
		自己負担						
	その他							
	用水・かん水設備の整備	支援対象面積						
		総事業費						
		国庫補助						
		自己負担						
	その他							
	特認事業 取組内容： ()	支援対象面積						
		総事業費						
国庫補助								
自己負担								
その他								
部分改植 取組内容： ()	品目・品種名： ()	支援対象面積						
		国庫補助金額						
	品目・品種名： ()	支援対象面積						
		国庫補助金額						
改植後の幼木管理	支援対象面積							
	国庫補助金額							
省力技術研修	支援対象面積							
	国庫補助金額							

注1：小規模園地整備を実施する場合は、取組内容の（ ）内に「園内道の整備」、「傾斜の緩和」、「土壌土層改良」、「排水路の整備」のいずれかを記入すること。

注2：事業実施主体特認事業を実施する場合は、取組内容の（ ）内に当該特認事業の名称を記入すること。

注3：部分改植を実施する場合は、取組内容の（ ）内に「改植」、「新植」、「高接」のいずれかを記入すること。

注4：整備園地の規模が新規就農者等の育成計画に見合ったものであることを示す資料を添付すること。

2 整備園地の運用計画（実績）

（1）整備園地全体の運用方針

例）整備園地の運用主体は、支援対象者である〇〇とする。園地は、令和5年度に園内道及び用水・かん水設備の整備を実施し、令和6年度から就農希望の研修生用のトレーニングファームとして運用する。研修用として2年間運用した後の令和8年度以降は、希望者に園地の一部をリース分譲する。

注：整備する園地の運用主体、運用の方法（研修利用、新規就農者等へのリースや譲渡等の計画）や工程について記載すること。

（2）整備園地全体の運用計画及び工程

〇年度 (事業開始年度)	例) 5,000㎡の園地を対象に園内道、用水・かん水設備の整備を実施する。
〇年度	例) 〇年度に整備した園地について、就農希望者用のトレーニングファームとして運用を開始し、研修生を受け入れる。また、新たに5,000㎡の園地整備を実施する。
〇年度	例) 整備園地10,000㎡をトレーニングファームとして運用するとともに、希望者に対して園地のリースを開始する。
〇年度 (目標年度)	例) 整備園地のうち5,000㎡を引き続きトレーニングファームとして運用し、5,000㎡をリース分譲する。

注：各年度における運用計画について記載すること。

（3）各整備園地の運用計画

園地番号	園地の所在地	品目	品種名	面積 (㎡)	整備の内容及び実施年度	運用方法	リース又は譲渡の場合 はその相手及び予定年度
例)	〇〇市〇〇町大字〇〇字〇〇	ぶどう	シャインマスカット	5,000	・園内道 (R5) ・用水・かん水設備 (R5)	研修、 リース	果樹太郎 (R8)
1							
2							
3							

注1：「整備の内容及び実施年度」欄は、本事業で整備する内容を記載し、カッコ書きで実施年度を記載すること。

注2：「運用方法」欄は、研修、リース、譲渡、その他のうち該当するものを記載すること。

注3：リース又は譲渡の相手は、計画段階で未定の場合は「〇年度研修参加者」等、リース又は譲渡先の目処を記載すること。

(4) 本事業とは別の国費や県費等が投入された事業との関連概要（※ 整備園地において該当がある場合に記載）

該当園地	事業名	事業の所管	実施年度	整備の内容

注1：「該当園地」欄は、(3)の園地番号を記載すること。

注2：「事業の所管」欄は、省庁や地方公共団体等の名称を記載すること。

注3：「整備の内容」欄は、整備対象の設備等を具体的に記載すること。

第7 本年度の申請・取組内容

1 小規模園地整備等、部分改植、幼木管理

添付「未来型果樹農業等推進条件整備事業（担い手育成型）のうち園地整備等の取組計画（兼実績報告）」のとおり。

注：添付様式は「別添4-1」を準用すること（ただし、様式のうち「放任園地発生防止対策」欄は削除する）。

2 省力技術研修

取組 (技術導入調査・講習会等)	対象面積 (園地整備する 面積)	補助金額 (対象面積× 3万円/10a)	備考
	ha	円	
計			

注：省力技術の導入に向けて、産地における現状と課題、目指すべき目標を整理した資料を添付すること。

第8 活動評価と改善の方法

1 評価体制

例) 協議会の下に〇〇、××、□□から構成される評価委員会を設置し、毎年度ごとに各取組の実施状況について評価を行い、代表者に報告するものとする。

2 評価に対する改善

例) 支援対象者は、評価委員会に改善を要するとされた取組について、改善計画を作成するものとする。

第9 必要経費

1 経費の配分と負担区分

区 分	事業費 円	負 担 区 分			備 考
		国庫補助 円	自己負担 円	その他 円	
1 小規模園地整備等					
2 部分改植					
3 改植後の幼木管理					
4 省力技術研修					
合 計					

注1:「事業費」欄は、定額補助分については補助金額を事業費の額として計上すること。

2:1については、事業費＝国庫補助＋自己負担＋その他とすること。

2 収支予算（又は精算）

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額 円	本年度精算額 円	比較増減		備 考
			増 円	減 円	
国庫補助金					
自己資金					
その他					
合 計					

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額 円	本年度精算額 円	比較増減		備 考
			増 円	減 円	
未来型果樹農業等推進条件整備事業 (うち担い手育成型)					
合 計					

注：経費積算の基礎等の根拠資料を提出すること。

第10 事業完了予定（完了）年月日

年 月 日

別添5-2 (Iの第1の3(1)ス(ア)関係)

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者氏名

○年度未来型果樹農業等推進条件整備事業実績報告兼補助金支払請求書

貴協会の業務方法書に基づき、未来型果樹農業等推進条件整備事業の実績について別紙のとおり報告する。

また、併せて、下記のとおり未来型果樹農業等推進条件整備事業補助金 円の支払いを請求する。

記

- 1 事業の目的及び内容
- 2 経費の配分

区分	補助事業に要する経費	負担区分		備考
		国（本年度国庫補助金）	自己負担	
	円	円	円	
未来型果樹農業等推進条件整備事業				
計				

注 備考欄には、消費税仕入れ控除税額について、これを減額した場合には「除税額〇〇〇円うち国費〇〇〇円」を、同税額がない場合には「該当なし」と同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記載すること。

- 3 事業完了予定年月日（又は事業完了年月日）

年 月 日

- 4 収支精算額

(1) 収入の部

区分	本年度精算額	本年度予算額	比較		備考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	円
自己負担金					
計					

(2) 支出の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
未来型果樹農業等推 進条件整備事業	円	円	円	円	円
計					

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添書類として、未来型果樹農業等推進条件整備事業実施計画（別添5－1別添1又は2）の写しを添付する。

なお、計画承認の事業内容から変更がある場合には、計画承認を受けた計画書の変更箇所を加筆修正（変更前を上段括弧で二段書）した該当資料ページを添付して提出すること。

- 2 その他必要な書類

別添5-3 (Iの第1の3(1)セ(ア)関係)

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者氏名

○年度未来型果樹農業等推進条件整備事業の実施状況の報告について

貴協会の業務方法書第〇条に基づき、未来型果樹農業等推進条件整備事業の実施状況について別添のとおり報告します。

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添の未来型果樹農業等推進条件整備事業実施状況確認シート
- 2 その他必要な書類

未来型果樹農業等推進条件整備事業（うち新産地育成型・既存産地改良型）
実施状況確認シート

都道府県名			
支援対象者名		代表者名	
目標年度	年度	（事業実施	年目）
対象品目・品種			
導入した技術名称及び概要 （省力樹形又は整列樹形・機械作業体系）			

1 成果目標の達成状況

--

注 成果目標は事業計画書と同じものとする。

基準年 （○年度）	目標 （○年度）	当該年の実績 （○年度）	達成率	備考
			（%）	

注 1 成果目標である 10a 当たりの作業時間当たり収穫量の単位は「t/時間」とすること。

2 実績及び達成状況の算出根拠となる資料を添付すること（事業により整備した園地における作業時間当たり収穫量、県・市町村の経営指標、試験場のデータ等）。

3 必要に応じて年度の欄は追加すること。

2 事業の取組状況

--

3 取組の総評

--

4 今後の課題と翌年度計画への反映状況

--

未来型果樹農業等推進条件整備事業（うち担い手育成型）
実施状況確認シート

都道府県名			
支援対象者名		代表者名	
事業開始年度	年度		
目標年度	年度	（事業実施 年目）	
対象品目・品種			
取組内容 （園地整備や 研修等の内容）			

1 成果目標の達成状況

--

注 成果目標は事業計画書と同じものとする。

	目標 (○年度)	当該年度の実績 (○年度)	達成率	備考
			(%)	
確保する（した） 新規参入者等の数				

注1 実績及び達成状況の根拠となる資料を添付すること。

2 必要に応じて年度の欄は追加すること。

2 事業の取組状況

--

3 取組の総評

--

4 今後の課題と翌年度計画への反映状況

--

別添5-4 (Iの第1の3(1)ソ(ア)関係)

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者氏名

○年度未来型果樹農業等推進条件整備事業の目標達成状況の報告について

貴協会の業務方法書第○条に基づき、未来型果樹農業等推進条件整備事業の目標達成状況について別添のとおり報告する。

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添の未来型果樹農業等推進条件整備事業目標達成状況確認シート
- 2 必要に応じて実施状況報告を添付すること
- 3 その他必要な書類

未来型果樹農業等推進条件整備事業（うち新産地育成型・既存産地改良型）
目標達成状況確認シート

都道府県名			
支援対象者名		代表者名	
目標年度	年度	（事業実施	年目）
対象品目・品種			
導入した技術名称及び概要 （省力樹形又は整列樹形・機械作業体系）			

1 成果目標の達成状況

--

注 成果目標は事業計画書と同じものとする。

基準年 （○年度）	目標 （○年度）	当該年の実績 （○年度）	達成率	備考
			（%）	

注 1 成果目標である 10a 当たりの作業時間当たり収穫量の単位は「t/時間」とすること。

2 実績及び達成状況の算出根拠となる資料を添付すること（事業により整備した園地における作業時間当たり収穫量、県・市町村の経営指標、試験場のデータ等）。

3 必要に応じて年度の欄は追加すること。

2 事業の取組状況

（1）未来型果樹農業等推進条件整備事業の実施状況

--

（2）取組の総評

--

未来型果樹農業等推進条件整備事業（うち担い手育成型）
目標達成状況確認シート

都道府県名			
支援対象者名		代表者名	
事業開始年度	年度		
目標年度	年度	（事業実施 年目）	
対象品目・品種			
取組内容 （園地整備や 研修等の内容）			

1 成果目標の達成状況

--

注 成果目標は事業計画書と同じものとする。

	目標 (○年度)	当該年度の実績 (○年度)	達成率	備考
			(%)	
確保する（した） 新規参入者等の数				

注 1 実績及び達成状況の根拠となる資料を添付すること。

2 必要に応じて年度の欄は追加すること。

2 事業の取組状況

(1) 未来型果樹農業等推進条件整備事業の実施状況

--

(2) 取組の総評

--

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者氏名

○年度未来型果樹農業等推進条件整備事業（うち新産地育成型・既存産地改良型）
における改善計画について

貴協会の業務方法書第○条に基づき、改善計画を実施することとしたいので、報告する。

記

- 1 改善計画の趣旨
- 2 事業で導入した省力樹形又は整列樹形、機械作業体系の内容及び取組の経過
- 3 成果目標が未達成である原因及び問題点
- 4 事業の実績及び改善計画

成果目標：○年度までに○○する。

事業開始後の状況			目標 (○年度)	達成率 (%)	改善計画		
基準年 (○年度)	1年目 (○年度)	2年目 (○年度)			1年目 (○年度)	2年目 (○年度)	達成率 (%)

- 注 1 成果目標である作業時間当たり収穫量の単位は「t/時間」とすること。
2 成果目標を変更する場合は、計画時の数値を上段に（）を付し、下段に新たな目標値を記載すること。
3 改善計画の根拠となる資料を添付すること。

- 5 改善方策
- 6 改善計画を実施するための推進体制

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者氏名

○年度未来型果樹農業等推進条件整備事業（うち担い手育成型）
における改善計画について

貴協会の業務方法書第○条に基づき、改善計画を実施することとしたいので、報告する。

記

- 1 改善計画の趣旨
- 2 事業の内容及び取組の経過
- 3 成果目標が未達成である原因及び問題点
- 4 事業の実績及び改善計画

成果目標：○年度までに新規参入者数等を○名確保する。

事業開始後の状況			目標 (○年度)	達成率 (%)	改善計画		
基準年 (○年度)	1年目 (○年度)	2年目 (○年度)			1年目 (○年度)	2年目 (○年度)	達成率 (%)

注 1 成果目標を変更する場合は、計画時の数値を上段に () を付し、下段に新たな目標値を記載すること。

2 改善計画の根拠となる資料を添付すること。

- 5 改善方策
- 6 改善計画を実施するための推進体制

別添 6 - 1 削除

別添 6 - 2 削除

別添 6 - 3 削除

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者指名

○年度優良苗木生産推進事業補助金（変更）交付申請書

○年度において、下記のとおり事業を実施したいので、貴協会の業務方法書第○条に基づき、優良苗木生産推進事業補助金 円の交付を申請する。

記

- 1 事業の目的及び内容
- 2 経費の配分

区分	補助事業に 要する経費	負担区分		備考
		国（本年度国 庫補助金）	自己負担	
優良苗木生産推進事業	円	円	円	
計				

注 備考欄には、消費税仕入れ控除税額について、これを減額した場合には「除税額○○○円うち国費○○○円」を、同税額がない場合には「該当なし」と同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記載すること。

- 3 事業完了予定年月日（又は事業完了年月日）
年 月 日

- 4 収支精算額（又は収支精算額）

(1) 収入の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	円
自己負担金					
計					

(2) 支出の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
優良苗木生産推進事業	円	円	円	円	円
計					

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添書類として、優良苗木生産推進事業実施計画（別添7-1別添）の写しを添付する。
なお、計画承認の事業内容から変更がある場合には、計画承認を受けた計画書の変更箇所を加筆修正（変更前を上段括弧で二段書）した該当資料ページを添付して提出すること。
- 2 その他必要な書類

果樹農業生産力増強総合対策

優良苗木生産推進事業実施計画（兼実績報告）書

都道府県名：

事業実施年度： 年度

目標年度： 年

支援対象者名：

対象地域：

第1 事業実施体制
支援対象者の概要

中核機関	
中核機関代表者名	
コンソーシアムの構成員	〇〇県、〇〇産地協議会、□□産地協議会、△△種苗（種苗会社）
事務局	〇〇産地協議会（JA〇〇）
担当者：	
住所：	
電話番号：	
e-mailアドレス：	
会計担当者	〇〇産地協議会（JA〇〇）
担当者：	
住所：	
電話番号：	
e-mailアドレス：	
苗木生産者	〇〇株式会社
氏名及び住所（法人の場合には名称及び代表者の氏名）	
取り扱う指定種苗の種類（野菜、果樹、花き等の作物区分）	
営業所の所在地	
苗木生産施設（ほ場）の所在地	
生産を行っている主な品目・品種	

注1：苗木生産コンソーシアムの場合は、推進体制がわかる資料を添付すること。

2：産地協議会については、果樹産地構造改革計画を添付すること。

3：支援対象者が苗木生産者の場合は、苗木生産者の欄のみ記載すること。この場合、担当者の氏名、電話番号、e-mailアドレスを記入すること。

第2 事業の実施について

1 事業実施方針

--

注1：現状の問題点を踏まえて、事業の実施方針を記入すること。

2：苗木生産コンソーシアムの苗木生産者については、地域内の業者を基本とするが、地域外（県外）の業者の場合はその理由を記入すること。

3：支援対象者が苗木生産者の場合は、苗木の供給先（生産出荷団体等）及び当該供給先が構成員となっている産地協議会名を記入すること。
併せて、当該産地協議会の果樹産地構造改革計画を添付すること。

2 成果目標

成果目標	
成果目標の具体的な内容	
事後評価の検証方法	

3 苗の生産を必要とする品種

協議会名	品目名	品種名	現在の栽培面積 (年度)	事業実施後 3年目の 改植面積 (年度)	苗木の必要本数		備考
					うち本事業で の供給本数		
	計						
	計						
	合計						

注1：品目・品種は産地計画で「生産を振興する品目・品種」に位置づけられたもののうち本事業で生産する品目・品種について記入すること。

2：栽培面積の現在の欄は、事業を実施する年度の面積を記入すること。

3：備考には、苗の生産が必要な理由(省力樹形導入のためフェザー苗が必要、新品種の導入等)を記入すること。

4：適宜、行等を追加して記入すること。

4 苗木の生産計画

育苗ほの設置場所	ほ場面積 (a)	管理主体名	品目	品種名	品種登録の有無	育苗本数			備考	
						事業実施後1年目 (年度)	事業実施後2年目 (年度)	事業実施後3年目		
								(目標年) (年度)		うち出荷本数
例)	50	△△種苗	りんご	M9(台木)		100	100	100		〇〇と接ぐ台木のため出荷はしない
			りんご	〇〇(フェザー苗)	有		100	100	100	

注1: 「設置場所」の欄は、苗木生産ほを設置する市町村名・地域名を、特定の機関の敷地内に設置する場合には機関名を記入すること。

2: 生産する品目・品種は、コンソーシアムを構成する産地協議会が産地計画において「生産を振興する品目・品種」とすること。ただし、台木の生産を行う場合を除く。

3: 管理主体名は、苗木生産ほに関する責任者名(又は管理する機関名)を記入すること。

4: 生産する苗が登録品種であれば、「品種登録の有無」の欄に「有」を記入すること。

5: 登録品種の場合、備考欄に育成者の許諾を受けるなど増殖に問題がない旨を記入すること。

6: 品種名には()書きで、出荷する予定の苗の状態(例:フェザー苗、1年生苗等)を記入すること。

7: 台木を生産する場合は、備考に接ぎ木する品種を記入すること。

8: 目標年の出荷本数と3の「うち本事業での供給本数」は整合をとること。一致しない場合理由を備考に記入すること。

9: 適宜、行等を追加して記入すること。

5 栽培実証ほの管理・作業の内容

育苗ほの設置場所	品種名	作業内容			備考
		事業実施後1年目	事業実施後2年目	事業実施後3年目	

注1: 苗木生産期間中における主な管理・作業等について記入すること。

2: 年ごとの管理・作業等が分かるように記入すること。

3: 適宜、行を追加して記入すること。

第3 取組内容

1 検討会の開催

開催時期	内容	参加人数・対象	場所	必要な経費（円）		備考
				うち国費	その他	
合計						

2 苗木育苗ほの設置

(1) 苗木生産ほ場借り上げ代

育苗ほの設置場所	面積（a）	必要な経費（円）		備考
		うち国費	その他	
合計				

注：複数年(3年相当分を越えないこと)を計上する場合、実績報告の際には、2年目以降の経費については、領収書(写)等を添付すること。

(2) 苗木生産ほ場整備費

育苗ほの設置場所	機械・施設（能力、台数）等	必要な経費（円）		備考
		うち国費	その他	
合計				

注：ほ場毎に記入すること。

(3) 省力樹形用苗木の育成

対象品目名	対象面積 (改植・新植面積 を上限)	補助金額 (対象面積×20万円 /10a)	備考
	ha	円	
計			

注1：対象面積は、本取組により育成した省力樹形用苗木を用いて改植又は新植を行う面積とする。

2：本取組において支援対象となる省力樹形は、Iの第1の1(3)のAの表のうち1の(1)イにおける省力樹形とする。

第4 活動評価と改善の方法

1 評価体制

(例) コンソーシアムの下に〇〇、××、□□から構成される評価委員会を設置し、毎年度ごとに各取組の実施状況について評価を行い、代表者に報告するものとする。

2 評価に対する改善

(例) コンソーシアムの代表者は、評価委員会に改善を要するとされた取組について、改善計画を作成するものとする。

第5 必要経費

1 経費の配分と負担区分

区 分	事 業 費	負 担 区 分			備 考
		国庫補助	自己負担	その他	
	円	円	円	円	
1 検討会の開催					
2 苗木育苗ほの設置					
3 省力樹形用苗木の育成					
合 計					

注1 「事業費」欄には、本事業の実施に係る事業費の総額を記載すること。

2 補助率の異なる取組を行う場合は補助率ごとに記載欄を分けて記載すること。

3 事業費＝国庫補助＋自己負担＋その他とすること(3を除く。)

2 収支予算（又は精算）

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備 考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	
自己資金					
その他					
合 計					

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備 考
			増	減	
優良苗木生産推進事業	円	円	円	円	
合 計					

注1 経費積算の基礎等の根拠資料を提出すること。

2 適宜、行を追加して記入すること。

第6 事業完了予定（完了）年月日

年 月 日

第7 添付資料

- 1 組織及び運営についての規約等写し、財務諸表（又は収支予算書、収支決算書等）
- 2 本事業の一部を外部へ委託する場合は、その委託契約書（案）（又は写し）
- 3 その他、事業主体及び事業実施者が必要と認める資料

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者指名

○年度優良苗木生産推進事業実績報告兼補助金支払請求書

貴協会の業務方法書に基づき、優良苗木生産推進事業の実績について別紙のとおり報告する。
また、併せて、下記のとおり優良苗木生産推進事業補助金 円 の支払いを請求する。

記

- 1 事業の目的及び内容
- 2 経費の配分

区分	補助事業に要する経費	負担区分		備考
		国（本年度国庫補助金）	自己負担	
優良苗木生産推進事業	円	円	円	
計				

注 備考欄には、消費税仕入れ控除税額について、これを減額した場合には「除税額〇〇〇円うち国費〇〇〇円」を、同税額がない場合には「該当なし」と同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記載すること。

- 3 事業完了予定年月日（又は事業完了年月日）
年 月 日

- 4 収支精算額
(1)収入の部

区分	本年度精算額	本年度予算額	比較		備考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	円
自己負担金					
計					

(2) 支出の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
優良苗木生産推進事業	円	円	円	円	円
計					

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添書類として、優良苗木生産推進事業実施計画（別添7-1別添）の写しを添付する。
なお、計画承認の事業内容から変更がある場合には、計画承認を受けた計画書の変更箇所を加筆修正（変更前を上段括弧で二段書）した該当資料ページを添付して提出すること。
- 2 その他必要な書類

別添 7-3 (Ⅱの第1の1 (13) ア関係)

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者指名

○年度優良苗木生産推進事業の実施状況の報告について

貴協会の業務方法書第〇条に基づき、優良苗木生産推進事業の実施状況について別添のとおり報告します。

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添の優良苗木生産推進事業実施状況確認シート
- 2 その他必要な書類

優良苗木生産推進事業実施状況確認シート

都道府県名			
支援対象者名		中核機関 及び代表 者名	
目標年度	年度	(事業実施	年目)

注：支援対象者が苗木生産者の場合は、中核機関の記載は不要。

1 事業の実施状況

育苗ほの設置場所	ほ場 面積 (a)	管理 主体名	品目	品種名	品種 登録 の 有無	育苗状況		備 考
						前年 (年度)	事業実施後 ○年目 (年度)	

注：適宜、行等を追加して記入すること。

2 事業の取組状況

優良苗木生産推進事業の取組状況

--

3 取組の総評

--

4 今後の課題と翌年度計画への反映状況

--

別添 7-4 (Ⅱの第1の1 (14) ア関係)

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者指名

○年度優良苗木生産推進事業の目標達成状況の報告について

貴協会の業務方法書第〇条に基づき、優良苗木生産推進事業の目標達成状況について別添のとおり報告する。

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添の優良苗木生産推進事業目標達成状況確認シート
- 2 必要に応じて実施状況報告を添付すること
- 3 その他必要な書類

優良苗木生産推進事業目標達成状況確認シート

都道府県名			
支援対象者名		中核機関 及び代表 者名	
目標年度	年度	(事業実施	年目)

注：支援対象者が苗木生産者の場合は、中核機関の記載は不要。

1 成果目標の達成状況

成果目標	
成果目標の具体的な内容	
検証方法及び達成状況	

育苗ほの設置場所	ほ場面積 (a)	管理 主体名	品目	品種名	計画		実績	
					事業実施後3年目		事業実施後3年目	
					(目標年) (年度)	うち 出荷本数	(目標年) (年度)	うち 出荷本数

注：適宜、行等を追加して記入すること。

2 事業の取組状況

(1) 優良苗木生産推進事業の取組状況

--

(2) 取組の総評

--

別添 7-5 (Ⅱの第1の1 (14) イ関係)

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者指名

○年度優良苗木生産推進事業における改善計画について

貴協会の業務方法書第○条に基づき、改善計画を実施することとしたいので、報告する。

記

- 1 改善計画の趣旨
- 2 事業で借り上げ、整備した育苗ほ場での苗木生産の状況及び取組の経過
- 3 成果目標が未達成である原因及び問題点
- 4 事業の実績及び改善計画

成果目標	
成果目標の具体的な内容	
検証方法及び達成状況	

育苗ほ場の設置場所	ほ場面積 (a)	管理主体名	品目	品種名	目標の達成状況		改善計画			
					事業実施後3年目		1年目		2年目	
					(目標年) (年度)	うち出荷本数	(年度)	うち出荷本数	(目標年) (年度)	うち出荷本数

注：適宜、行等を追加して記入すること。

- 5 改善方策
- 6 改善計画を実施するための推進体制

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

支援対象者名
所在地
代表者指名

○年度優良苗木生産推進事業収益状況報告書

○年度において、補助金の交付決定があった優良苗木生産推進事業に関する 年度の収益の状況
について、貴協会の業務方法書第○条に基づき、下記のとおり報告する。

記

1 事業の目的及び内容	円
2 補助事業の成果の企業化による収益額	円
3 補助事業に関して支出された総額	円
4 企業化に係る総費用	円
5 補助金の確定額	円
6 前年度までの収益納付額	円
7 本年収益納付額	円

(注) 各項目の算出の根拠となる資料を添付すること

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度果樹種苗増産緊急対策事業補助金（変更）交付申請書

○年度において、下記のとおり事業を実施したいので、貴協会の業務方法書第○条に基づき、果樹種苗増産緊急対策事業補助金 円の交付を申請する。

記

1 事業の目的及び内容

2 経費の配分

区分	補助事業に 要する経費	負担区分		備考
		国（本年度国 庫補助金）	自己負担	
	円	円	円	
果樹種苗増産緊急対策事業 計				

注 備考欄には、消費税仕入れ控除税額について、これを減額した場合には「除税額○○○円うち国費○○○円」を、同税額がない場合には「該当なし」と同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記載すること。

3 事業完了予定年月日（又は事業完了年月日）

年 月 日

4 収支精算額（又は収支精算額）

(1)収入の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	円
自己負担金					
計					

(2) 支出の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
果樹種苗増産緊急対策事業	円	円	円	円	円
計					

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添書類として、果樹種苗増産緊急対策事業実施計画（別添7-1別添）の写しを添付する。
なお、計画承認の事業内容から変更がある場合には、計画承認を受けた計画書の変更箇所を加筆修正（変更前を上段括弧で二段書）した該当資料ページを添付して提出すること。
- 2 その他必要な書類

果樹農業生産力増強総合対策

果樹種苗増産緊急対策事業
実施計画（兼実績報告）書

都道府県名：

策定年度：

年度

目標年度：

事業実施者名

（輸入苗木供給推進コンソーシアム）：

対象地域：

第1 事業実施体制

中核機関	
中核機関代表名	
産地協議会の構成員	都道府県： 産地協議会： 大学又は試験研究機関： その他：
事務局	〇〇産地協議会（JA〇〇）
担当者：	
住所：	
電話番号：	
e-mailアドレス：	
会計担当者	〇〇産地協議会（JA〇〇）
担当者：	
住所：	
電話番号：	
e-mailアドレス：	

注1：苗木生産コンソーシアムの推進体制がわかる資料を添付すること。

2：地域協議会については、果樹産地構造改革計画を添付すること。

第2 事業の実施について

1 事業の実施方針

--

注：現状の問題点を踏まえて、事業の実施方針を記入すること。

2 成果目標

目標年度	
成果目標	
成果目標の具体的な内容	
事後評価の検証方法	

注：成果目標の具体的な内容については、事業実施3年後までに隔離検疫を終えて、輸入する予定の品種名を記入すること。

3 隔離栽培計画

(1) 輸入ぶどう苗木等の品目・品種

	品目	品種	輸入本数	輸入相手国	隔離検疫の期間	産地協議会への 出荷予定時期	配布希望産地協議会及び配布希望数 量
1年目							
	合計						
2年目							
	合計						
3年目							
	合計						

注1：「配布希望産地協議会及び配布希望数量」の欄には、配布希望の産地協議会名の後に（）書きで配布数量を記入すること。

2：事業実施3年後までに隔離検疫を終えて、輸入する予定の品種については、2の成果目標と整合をとること。

(2) 隔離栽培施設の概要

隔離栽培施設の場所	施設管理者	施設の面積 m ²	栽培可能本数 本	施設の概要

連携している植物防疫所	
-------------	--

注：担当課、係まで記入すること

第3 取組内容

1 現地検討会・講習会等の開催

開催時期	内容	参加人数・対象	場所	必要な経費（円）		備考
				うち国費	その他	
合計						

2 隔離栽培用施設の修繕等

作成時期	内容	機械・施設（能力、台数）等	必要な経費（円）		備考
			うち国費	その他	
合計					

注 施設の見取り図、修繕等の内容がわかる資料を添付すること。

うち リースによる機械・施設の導入

リース期間	内容	リースする機械・施設（能力、台数）等	必要な経費（円）		備考
			うち国費	その他	
合計					

(1)リース内容

品目名	機械・施設名	仕様 製造会社名 型式	台数	管理者	保管・設置場所	備考

注 対象機械が複数ある場合には、適宜、行を追加して機械ごとに記載すること。

(2)農業機械・施設をリースする場合の対象機械の決定の根拠

機械名	リース物件価格 (千円)	リースする機械の選定理由及び規模決定の根拠	備考

注1 「リース物件価格(千円)」の欄には、リースする農業機械の販売業者により設定されている小売希望価格(設定されていない場合は一般的な実勢価格(税抜価格))を記載すること。

注2 「リースする機械の選定理由及び規模決定の根拠」の欄の「規模決定の根拠」では農業機械の能力を決定(導入する機械の能力、台数、単価等)した計算過程をその根拠となる機械の能力等の具体的な数値を用いて記載すること。

(3)リース機械の納入業者の選定方法の計画

入札方式 (いずれかに○)	指名業者選定の考え方	備考
一般競争入札 ・ 指名競争入札		

注「指名業者選定の考え方」の欄は、一般競争入札以外の選定方法で業者を選定した場合、記載すること。

(4) 農業機械のリース料等

リース期間	開始月～終了月 (※1)	年	月	～	年	月	(月)	備考	
	リース借受日から○年間 (※2)								(年)
リース物件取得予定価格(消費税抜き)	①							(円)	
リース期間終了後の残存価格(消費税抜き)	②							(円)	
リース料助成申請額	③							(円)	
リース諸費用(消費税抜き)	④							(円)	
消費税	⑤							(円)	
事業実施主体負担リース料(消費税込み) ①-②-③+④+⑤							(円)		
リース料助成申請額③は、下記の算式のいずれか小さい額を記入すること (使用した算式に○を記入すること)。									
I リース物件価格 × リース期間 / 耐用年数 × 1/2				II (リース物件価格 - 残存価格) × 1/2					

- 注1 ※1及び※2については、いずれかを記入すること。
 2 リース事業者の見積書の写し(実績報告では契約書の写し)等を添付すること。
 3 複数の農業機械をリース導入する場合、表を追加し、機械ごとに記載すること。
 4 別紙のチェック票を添付すること。

第4 活動評価と改善の方法

1 評価体制

(例) 協議会の下に〇〇、××、□□から構成される評価委員会を設置し、毎年度ごとに各取組の実施状況について評価を行い、代表者に報告するものとする。

2 評価に対する改善

(例) 協議会の代表者は、評価委員会に改善を要するとされた取組について、改善計画を作成するものとする。

第5 必要経費

1 経費の配分と負担区分

区 分	事 業 費	負 担 区 分			備 考
		国庫補助	自己負担	その他	
	円	円	円	円	
1 現地検討会・講習会等の開催					
2 隔離栽培用施設の修繕等					
合 計					

注1 「事業費」欄には、本事業の実施に係る事業費の総額を記載すること。

2 事業費＝国庫補助＋自己負担＋その他とすること。

2 収支予算（又は精算）

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備 考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	
自己資金					
その他					
合 計					

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備 考
			増	減	
果樹種苗増産緊急対策事業	円	円	円	円	
合 計					

注1 経費積算の基礎等の根拠資料を提出すること。

2 適宜、行を追加して記入すること。

第6 事業完了予定（完了）年月日

年 月 日

- 5 リース会社の選定はどのように行いましたか。
- ① 従来から利用しているリース会社を選定した
 - ② 複数社のリース手数料を確認して割安な会社を選定した
 - ③ JA等から斡旋されたリース会社を選定した
 - ④ 近隣に営業所があるリース会社を選定した
 - ⑤ その他 ()

- 6 リース手数料の内容について、リース会社から説明を受けましたか。
- ① 受けた
 - ② 受けていない

- 7 リース手数料について、引き下げ交渉を行いましたか。
- ① 引き下げ交渉は行っていない
 - ② 引き下げ交渉を行い、当初の提示よりも引き下げてもらった
 - ③ 引き下げ交渉を行ったが、当初の提示どおりだった

～以下は購入先の販売店から聞き取って記入してください。～

- 8 導入する農業機械の定価及び平均的な販売価格（実売価格、本体部分のみ、税抜き）、入札・相見積もり時の価格が実売価格と比較し、5%以上高い場合はその理由

(単位：円)

定価	実勢価格	導入価格	実売価格と比較し5%以上高い理由

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度果樹種苗増産緊急対策事業実績報告兼補助金支払請求書

貴協会の業務方法書に基づき、果樹種苗増産緊急対策事業の実績について別紙のとおり報告する。
また、併せて、下記のとおり果樹種苗増産緊急対策事業補助金 円 の支払いを請求する。

記

1 事業の目的及び内容

2 経費の配分

区分	補助事業 に要する 経費	負担区分		備考
		国（本年度国庫補 助金）	自己負担	
	円	円	円	
果樹種苗増産緊急対策事業 計				

注 備考欄には、消費税仕入れ控除税額について、これを減額した場合には「除税額〇〇〇円うち
国費〇〇〇円」を、同税額がない場合には「該当なし」と同税額が明らかでない場合には「含税
額」とそれぞれ記載すること。

3 事業完了予定年月日（又は事業完了年月日）

年 月 日

4 収支精算額

(1) 収入の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	円
自己負担金					
計					

(2) 支出の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
果樹種苗増産緊急対 策事業	円	円	円	円	円
計					

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添書類として、果樹種苗増産緊急対策事業実施計画（別添8－1別添）の写しを添付する。
なお、計画承認の事業内容から変更がある場合には、計画承認を受けた計画書の変更箇所を加筆修正（変更前を上段括弧で二段書）した該当資料ページを添付して提出すること。
- 2 その他必要な書類

別添 8 - 3 (Ⅱの第1の2の(12)ア関係)

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度果樹種苗増産緊急対策事業の実施状況の報告について

貴協会の業務方法書第○条に基づき、果樹種苗増産緊急対策事業の実施状況について別添のとおり報告します。

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添の果樹種苗増産緊急対策事業実施状況確認シート
- 2 その他必要な書類

果樹種苗増産緊急対策事業実施状況確認シート

都道府県名			
事業実施者名		中核機関 及び代表 者名	
目標年度	年度	(事業実施	年目)

1 事業の実施状況

隔離栽培施設の場所	施設管理者	施設の面積	栽培可能本数
		m ²	本
連携している植物防疫所			

注：担当課、係まで記入すること

	品目	品種	輸入本数	隔離検疫 の期間	配布時期 (予定)	配布先 (本数)	備考
前年							
	計						
○年目 (年度)							
	計						

注：適宜、行等を追加して記入すること。

2 事業の取組状況

果樹種苗増産緊急対策事業の取組状況

--

3 取組の総評

--

4 今後の課題と翌年度計画への反映状況

--

別添 8-4 (Ⅱの第1の2 (13) ア関係)

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度果樹種苗増産緊急対策事業の目標達成状況の報告について

貴協会の業務方法書第〇条に基づき、果樹種苗増産緊急対策事業の目標達成状況について別添のとおり報告する。

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添の果樹種苗増産緊急対策事業目標達成状況確認シート
- 2 必要に応じて実施状況報告を添付すること
- 3 その他必要な書類

果樹種苗増産緊急対策事業目標達成状況確認シート

都道府県名			
事業実施者名		中核機関 及び代表 者名	
目標年度	年度	(事業実施	年目)

1 成果目標の達成状況

成果目標	
成果目標の具体的な内容	
検証方法及び達成状況	

品目	品種	輸入 本数	隔離検疫 の期間	計画		実績	
				3年目 (年度)		3年目 (年度)	
				出荷時期	出荷先	出荷時期	出荷先
計							

注：適宜、行等を追加して記入すること。

2 事業の取組状況

(1) 果樹種苗増産緊急対策事業の取組状況

--

(2) 取組の総評

--

別添 8-5 (Ⅱの第1の2 (13) イ関係)

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度果樹種苗増産緊急対策事業における改善計画について

貴協会の業務方法書第○条に基づき、改善計画を実施することとしたいので、報告する。

記

- 1 改善計画の趣旨
- 2 事業で整備した隔離栽培施設での隔離検疫の実施状況及び取組の経過
- 3 成果目標が未達成である原因及び問題点
- 4 事業の実績及び改善計画

成果目標	
成果目標の具体的な内容	
検証方法及び達成状況	

品目	品種	輸入本数	隔離検疫の期間	目標の達成状況		改善計画			
						1年目 (年度)		2年目 (年度)	
				出荷時期	出荷先	出荷時期	出荷先	出荷時期	出荷先
計									

注：適宜、行等を追加して記入すること。

- 5 改善方策
- 6 改善計画を実施するための推進体制

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度果樹種苗増産緊急対策事業収益状況報告書

○年度において、貴協会の業務方法書第○条に基づき、補助金の交付決定があった果樹種苗増産緊急対策事業に関する ○年度の収益の状況について、貴協会の業務方法書第○条に基づき、下記のとおり報告する。

記

1 事業の目的及び内容	円
2 補助事業の成果の企業化による収益額	円
3 補助事業に関して支出された総額	円
4 企業化に係る総費用	円
5 補助金の確定額	円
6 前年度までの収益納付額	円
7 本年収益納付額	円

(注) 各項目の算出の根拠となる資料を添付すること

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度花粉安定確保対策事業補助金（変更）交付申請書

○年度において、下記のとおり事業を実施したいので、貴協会の業務方法書第○条に基づき、
花粉安定確保対策事業補助金 円の交付を申請する。

記

1 事業の目的及び内容

2 経費の配分

区分	補助事業に 要する経費	負担区分		備考
		国（本年度国 庫補助金）	自己負担	
花粉安定確保対策事業	円	円	円	
計				

注 備考欄には、消費税仕入れ控除税額について、これを減額した場合には「除税額○○○円うち国費○○○円」を、同税額がない場合には「該当なし」と同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記載すること。

3 事業完了予定年月日（又は事業完了年月日）

年 月 日

4 収支精算額（又は収支精算額）

(1) 収入の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	円
自己負担金					
計					

(2) 支出の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
花粉安定確保対策事業	円	円	円	円	円
計					

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添書類として、花粉安定確保対策事業実施計画（別添 9 - 1 別添）の写しを添付する。
なお、計画承認の事業内容から変更がある場合には、計画承認を受けた計画書の変更箇所を加筆修正（変更前を上段括弧で二段書）した該当資料ページを添付して提出すること。
- 2 その他必要な書類

果樹農業生産力増強総合対策

花粉安定確保対策事業実施計画 (兼実績報告) 書

都道府県名 :

事業実施年度 : 年度

目標年度 : 年度

支援対象者名 :

対象地域 :

第1 事業実施体制
支援対象者の概要

支援対象者名（農業者名又は生産出荷団体等名）	
代表者名（以下、生産出荷団体等の場合）	
事務局	
担 当 者 :	
住 所 :	
電 話 番 号 :	
e-mailアドレス :	

第2 事業の実施について

1 事業実施方針

--

注：現状の問題点を踏まえて、事業の実施方針を記入すること。

2 成果目標

成果目標	
成果目標の具体的な内容	
事後評価の検証方法	

3 花粉の供給を必要とする品種

協議会名	品目名	品種名	現在の栽培面積 (a) (年度)	事業実施後 5年目の新植・ 改植面積 (年度)	花粉の 目標数量 (g)		備考
						うち本事業で の生産量	
	計						
	計						
合計							

注1: 品目・品種は産地計画で「生産を振興する品目・品種」に位置づけられた品目・品種を記入すること。

2: 現在の栽培面積の欄は、事業を実施する年度の面積を記入すること。

3: 適宜、行等を追加して記入すること。

4 花粉の供給計画

ほ場の設置場所	ほ場面積 (a)	管理主体名	品目	品種名	品種登録の有無	花粉の生産量(g)			備考
						事業実施後○年目 (年度)	事業実施後○年目 (年度)	事業実施後5年目 (目標年) (年度)	
			(例)なし						
			(例)キウイ フルーツ						

注1: 「設置場所」の欄は、花粉生産ほを設置する市町村名・地域名を、特定の機関の敷地内に設置する場合には機関名を記入すること。

2: 管理主体名は、花粉生産ほに関する責任者名(又は管理する機関名)を記入すること。

3: 生産する花粉が登録品種であれば、「品種登録の有無」の欄に「有」を記入すること。

4: 登録品種の場合、備考欄に育成者の許諾を受けるなど増殖に問題がない旨を記入すること。

5: 適宜、行等を追加して記入すること。

5 花粉生産ほの管理・作業の内容

ほ場の設置場所	品目・品種名	作業内容			備考
		事業実施後○年目	事業実施後○年目	事業実施後○年目	

注1: 花粉生産期間中における主な管理・作業等について記入すること。

2: 年ごとの管理・作業等が分かるように記入すること。

3: 適宜、行を追加して記入すること。

4 花粉専用樹の育成管理

対象品目名	対象面積 (新植・改植面積を上限)	補助金額 (対象面積×11万円/10a)	備考
	ha	円	
合計			

5 機械・施設のリース導入

リース期間	内容	リースする機械・施設 (能力、台数)等	必要な経費			備考
			うち国費	その他		
			円	円	円	
合計			円	円	円	

(1) リース内容

品目名	機械・施設名	仕様 製造会社名 型式	台数	管理者	保管・設置場所	備考

注 対象機械が複数ある場合には、適宜、行を追加して機械ごとに記載すること。

(2) 農業機械・施設をリースする場合の対象機械の決定の根拠

機械名	リース物件価格(千円)	リースする機械の選定理由及び規模決定の根拠	備考

注1 「リース物件価格(千円)」の欄には、リースする農業機械の販売業者により設定されている小売希望価格(設定されていない場合は一般的な実勢価格(税抜価格))を記載すること。

注2 「リースする機械の選定理由及び規模決定の根拠」の欄の「規模決定の根拠」では農業機械の能力を決定(導入する機械の能力、台数、単価等)した計算過程をその根拠となる機械の能力等の具体的な数値を用いて記載すること。

(3) リース機械の納入業者の選定方法の計画

入札方式(いずれかに○)	指名業者選定の考え方	備考
一般競争入札 ・ 指名競争入札		

注 「指名業者選定の考え方」の欄は、一般競争入札以外の選定方法で業者を選定した場合、記載すること。

(4) 農業機械のリース料等

リース期間	開始月～終了月	年 月	～	年 月	(月)	備 考	
	リース借受日から〇年間				(年)		
リース物件取得予定価格（消費税抜き）	①					(円)	
リース期間終了後の残存価格（消費税抜き）	②					(円)	
リース料助成申請額	③					(円)	
リース諸費用（消費税抜き）	④					(円)	
消費税	⑤					(円)	
事業実施主体負担リース料（消費税込み） ①－②－③＋④＋⑤					(円)		
リース料助成申請額③は、下記の算式のいずれか小さい額を記入すること（使用した算式に○を記入すること）。							
I リース物件価格 × リース期間 / 耐用年数 × 1/2			II (リース物件価格 - 残存価格) × 1/2				

- 注1 リース事業者の見積書の写し（実績報告では契約書の写し）等を添付すること。
 2 複数の農業機械をリース導入する場合、表を追加し、機械ごとに記載すること。
 3 別紙のチェック票を添付すること。

第4 必要経費

1 経費の配分と負担区分

区 分	事 業 費 円	負 担 区 分			備 考
		国庫補助 円	自己負担 円	その他 円	
1 検討会の開催					
2 小規模園地整備					
3 新植・改植					
4 花粉専用樹の育成管理					
5 機械・施設のリース導入					
合 計					

- 注1 「事業費」欄には、本事業の実施に係る事業費の総額を記載すること。
 2 新植等の補助率の異なる取組を行う場合は補助率ごとに記載欄を分けて記載すること。
 3 1、2及び5は事業費＝国庫補助＋自己負担＋その他とすること。

2 収支予算（又は精算）

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備 考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	
自己資金					
その他					
合 計					

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備 考
			増	減	
花粉安定確保対策事業	円	円	円	円	
合 計					

注1 経費積算の基礎等の根拠資料を提出すること。

2 適宜、行を追加して記入すること。

第5 事業完了予定（完了）年月日

年 月 日

第6 添付資料

事業実施主体及び事業実施者が必要と認める資料

- 5 リース会社の選定はどのように行いましたか。
- ① 従来から利用しているリース会社を選定した
 - ② 複数社のリース手数料を確認して割安な会社を選定した
 - ③ JA等から斡旋されたリース会社を選定した
 - ④ 近隣に営業所があるリース会社を選定した
 - ⑤ その他 ()

- 6 リース手数料の内容について、リース会社から説明を受けましたか。
- ① 受けた
 - ② 受けていない

- 7 リース手数料について、引き下げ交渉を行いましたか。
- ① 引き下げ交渉は行っていない
 - ② 引き下げ交渉を行い、当初の提示よりも引き下げてもらった
 - ③ 引き下げ交渉を行ったが、当初の提示どおりだった

～以下は購入先の販売店から聞き取って記入してください。～

- 8 導入する農業機械の定価及び平均的な販売価格（実売価格、本体部分のみ、税抜き）、入札・相見積もり時の価格が実売価格と比較し、5%以上高い場合はその理由

(単位：円)

定価	実勢価格	導入価格	実売価格と比較し5%以上高い理由

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度花粉安定確保対策事業実績報告兼補助金支払請求書

貴協会の業務方法書に基づき、花粉安定確保対策事業の実績について別紙のとおり報告する。
また、併せて、下記のとおり花粉安定確保対策事業補助金 円 の支払いを請求する。

記

- 1 事業の目的及び内容
- 2 経費の配分

区分	補助事業 に要する 経費	負担区分		備考
		国（本年度国庫補助金）	自己負担	
花粉安定確保対策事業	円	円	円	
計				

注 備考欄には、消費税仕入れ控除税額について、これを減額した場合には「除税額〇〇〇円うち国費〇〇〇円」を、同税額がない場合には「該当なし」と同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記載すること。

- 3 事業完了予定年月日（又は事業完了年月日）
年 月 日

- 4 収支精算額
(1) 収入の部

区分	本年度 精算額	本年度 予算額	比較		備考
			増	減	
国庫補助金	円	円	円	円	円
自己負担金					
計					

- (2) 支出の部

区分	本年度	本年度	比較	備考
----	-----	-----	----	----

	精算額	予算額	増	減	
花粉安定確保対策事業	円	円	円	円	円
計					

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添書類として、花粉安定確保対策事業実施計画（別添 9-1 別添）の写しを添付する。
 なお、計画承認の事業内容から変更がある場合には、計画承認を受けた計画書の変更箇所を加筆修正（変更前を上段括弧で二段書）した該当資料ページを添付して提出すること。
- 2 その他必要な書類

別添 9-3 (Ⅱの第2の11(1) 関係)

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度花粉安定確保対策事業の実施状況の報告について

貴協会の業務方法書第○条に基づき、花粉安定確保対策事業の実施状況について別添のとおり報告します。

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添の花粉安定確保対策事業実施状況確認シート
- 2 その他必要な書類

花粉安定確保対策事業実施状況確認シート

都道府県名			
事業実施者名		中核機関 及び代表 者名	
目標年度	年度	(事業実施	年目)

1 事業の実施状況

育苗ほの設置場所	ほ場 面積 (a)	管理 主体名	品目	品種名	品種 登録の 有無	花粉の生産量 (g)		備 考
						事業実施後 ○年目 (年度)	事業実施後 ○年目 (年度)	

注：適宜、行等を追加して記入すること。

2 事業の取組状況

花粉安定確保対策事業の取組状況

--

3 取組の総評

--

4 今後の課題と翌年度計画への反映状況

--

別添 9-4 (Ⅱの第2の12(1) 関係)

番 号
年 月 日

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度花粉安定確保対策事業の目標達成状況の報告について

貴協会の業務方法書第○条に基づき、花粉安定確保対策事業の目標達成状況について別添のとおり報告する。

(注) 別添書類として、次の写しを添付する。

- 1 別添の花粉安定確保対策事業目標達成状況確認シート
- 2 必要に応じて実施状況報告を添付すること
- 3 その他必要な書類

花粉安定確保対策事業目標達成状況確認シート

都道府県名			
事業実施者名		中核機関及び 代表者名	
目標年度	年度	(事業実施	年目)

1 成果目標の達成状況

成果目標	
成果目標の具体的な内容	
検証方法及び達成状況	

育苗ほの 設置場所	ほ場 面積 (a)	管理 主体名	品目	品種名	花粉の供給計画			
					計画		実績	
					事業実施後5年目		事業実施後5年目	
					(目標年) (年度)	うち本事業で の生産量	(目標年) (年度)	うち本事業 での生産量

注：適宜、行等を追加して記入すること。

2 事業の取組状況

(1) 花粉安定確保対策事業の取組状況

--

(2) 取組の総評

--

別添 9-5 (Ⅱの第2の12(2) 関係)

都道府県法人等
理事長等

事業実施者名
所在地
代表者指名

○年度花粉安定確保対策事業における改善計画について

貴協会の業務方法書第○条に基づき、改善計画を実施することとしたので、報告する。

記

- 1 改善計画の趣旨
- 2 事業で借り上げ、整備したほ場での花粉生産の状況及び取組の経過
- 3 成果目標が未達成である原因及び問題点
- 4 事業の実績及び改善計画

成果目標	
成果目標の具体的な内容	
検証方法及び達成状況	

育苗ほの設置場所	ほ場面積 (a)	管理主体名	品目	品種名	目標の達成状況		改善計画			
					事業実施後5年目		1年目		2年目	
					(目標年) (年度)	花粉の生産量 (g)	(目標年) (年度)	花粉の生産量 (g)	(目標年) (年度)	花粉の生産量 (g)

注：適宜、行等を追加して記入すること。

- 5 改善方策
- 6 改善計画を実施するための推進体制

別添 10-1

中価格帯・加工専用果実生産支援事業補助金交付申請書

番 号
年 月 日

公益財団法人 中央果実協会
理事長

殿

住 所
事業実施者
代表者氏名

実施要領の別紙3果樹農業生産力増強総合対策のⅢの第1の1の(4)のアに基づき、
下記のとおり中価格帯・加工専用果実生産支援事業補助金の交付を申請します。

記

1 補助金交付申請額 円

2 補助金交付申請額 内訳

事業内容	事業費	補助金交付額	摘要
	円	円	
計			

注) 別添として事業実施計画書を添付する。

(別添)

中価格帯・加工専用果実生産支援事業実施計画（実績）

事業実施者名
担当者所属、氏名
電話番号
F A X
メールアドレス

1 総括表

事業名	事業内容	事業費	負担区分		備考
			補助金	事業実施者	
		円	円	円	

2 事業の目的

--

3 事業の内容

(1) 検討会

検討会	開催時期	検討項目及び内容	参集者の構成 及び人数	備考

(2) 試作品開発に当たっての調査の実施（ニーズ調査、反応評価等）（又は実績）

実施場所	回数	調査対象及び人数	調査内容	備考

(3) 試作品の内容

試作品開発 時期	試作品の種類	原材料（うち果実の 品目、果実の割合等）	試作品のコンセプト	備考
年 月～年 月				

注) 備考に改良及び開発に必要な材料、資材等を記述すること。

(4) 栽培技術、出荷技術の実証

実証時期	実施場所	実証課題	実証内容	備考
年 月～年 月				

(5) マニュアル・調査報告書等の作成及び配布等

報告書等の名称	内容等	作成部数等	備考
		部	

4 経費の配分

事業種目 (取組名)	事業に要する(又 は要した)経費	負担区分			摘要
		補助金	自己負担	その他	
		円	円	円	

注) 1 負担区分その他の欄については、内訳を摘要欄に記載すること。

2 事業種目の内訳として括弧書きで取組名ごとに記載すること。

5 事業完了予定年月日（又は完了年月日）

6 収支予算

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額又 は本年度精算額	前年度予算額 又は本年度予 算額	比較増減		備 考
			増	減	
	円	円			

補助金					
自己負担金					
その他					
計					

注) 備考の欄その他の内容を記入すること

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額又は 本年度精算額	前年度予算額 又は本年度予 算額	比較増減		備 考
			増	減	
補助金	円	円			
自己負担金					
その他					
計					

別添 10－ 2

中価格帯・加工専用果実生産支援事業実績報告書兼支払請求書

番 号
年 月 日

公益財団法人 中央果実協会
理事長

殿

住 所
事業実施者
代表者氏名

実施要領の別紙 3 果樹農業生産力増強総合対策のⅢの第 1 の 1 の (5) のアに基づき、別添のとおり中価格帯・加工専用果実生産支援事業の事業実績を報告します。併せて、下記のとおり補助金の支払を請求します。

記

- 1 交付決定額 円
- 2 補助金実績額及び請求額 円
- 3 補助金実績額及び請求額 内訳

事業内容	事業費	補助金実績額及び請求額	摘要
	円	円	
計			

注) 別添は、別添 10－ 1 に準ずるものとする。

別添 11- 1

国産果実競争力強化事業補助金交付申請書

番 号
年 月 日

都道府県法人理事長 殿

住 所
事業実施者名
代表者氏名

実施要領の別紙 3 果樹農業生産力増強総合対策のⅢの第 1 の 2 の (4) のアに基づき、
下記のとおり補助金の交付を申請します。

記

1 補助金交付申請額

今回交付額
前回交付額
残 額
計

2 今回補助金交付申請額 内訳

事業種目	事業費	補助金交付額	摘要
	円	円	
計			

(別添)

国産果実競争力強化事業実施計画

事業実施者名
担当者所属、氏名
電話番号
FAX
メールアドレス

1 事業の内容

(1) 部門別経営分析及び需要調査

ア 部門別経営分析・需要調査の目的及び効果

イ 部門別経営分析・需要調査の概要

取組事項	実施時期	取組内容	事業費	備考
ア 部門別経営分析			円	
イ 需要調査			円	
計			円	

注) 取組内容の欄については、分析、調査の方法、スケジュール、実施体制等について記入すること。

(2) 果汁工場再編整備合理化

ア 工場合理化の目的及び効果

イ 工場合理化の概要

	現 状			計 画			合 理 化 方 策	事業費	備 考
	構 造	設備数	能力	構 造	設備数	能力			
合理化対象 施設・設備 ○○○ ○○○								円	
労働力 (常 勤) (臨時雇) 計	年間延べ人数			年間延べ人数					
		人			人				
		人			人				
		人			人				
合 計									

【労働力の月別内訳】

労働力	現 状													計 画													備 考
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	
(常 勤)																											
(臨時雇)																											
計																											

- 注) 1 搾汁部門の縮小、廃止を行う工場について記入すること。
 2 合理化方策の欄には、施設・設備については移設・廃棄を行う設備数、労働力については配置転換等を行う人数（現状と計画の差）を記入すること。
 3 製品製造計画について別表により作成の上、添付すること。

(3) 原料供給体制再構築

ア 事業導入の目的及び効果

イ 事業の概要

輸 送 先	輸送距離	輸送数量	左記輸送距離 におけるトン 当たり単価②	補助対象事業費	備 考 (工場名)
	km	① トン	円/トン	①×② 円	

(4) 高品質果汁等製造施設整備

ア 設備導入の目的及び効果

イ 設備導入の概要

施設名等	事 業 内 容 (構造、規格、能力等)	事 業 量 (単価、台数、面積等)	事業費	備 考
			円	

- 注) 1 備考には、施設所在地を記入すること。
 2 製品製造計画について別表により作成の上、添付すること。

(5) 新製品・新技術の開発促進等

ア 新製品・新技術開発の目的及び効果

イ 機械及び分析費等

項 目	事 業 量	単 価	事業費	備 考
			円	
合 計				

ウ 新製品等普及・啓発

項 目	実施時期	事業内容	事 業 量 (単価、回数等)	事業費	備 考
				円	
合 計					

注) 1 分析機器等の機械を導入する場合、別紙にて導入する機械の用途及び必要性を整理すること。

2 製品製造計画について別表により作成の上、添付すること。(新製品は備考欄に記入のこと。)

(6) 果実加工品等の需要増進

ア 健康への有益性に係る知識の普及等

項 目	実施時期	事業内容	事 業 量 (単価、回数等)	事業費	備 考
				円	
合 計					

イ 消費拡大に資する人材育成

項目	実施時期	事業内容	事業量 (単価、回数等)	事業費	備考
				円	
合計					

注) 1 当該事業を実施する場合のみ、記述すること。

2 「ア 健康への有益性に係る知識の普及等」には、若年層向け講座、企業と連携したセミナー、新たな摂取機会の提案等についてそれぞれ記入すること。

3 「イ 消費拡大に資する人材育成」には、スーパー等の従業員向け、社員食堂等の経営者向け等についてそれぞれ記入すること。

別表 製品製造計画等

ア 加工処理の現状

加工施設名	原料果実名 (製品名)	1日当 たり原 料処理 能力	原料処理量 (t)					製品製造量 (t)					備考	
			年	年	年	年	年	年	年	年	年	年		
		t												
合計														

注) 1 1日当たり8時間として処理能力を記入すること。

2 直近5カ年について記入すること。

3 製品が果汁の場合は5分の1濃縮換算量を記入し、()書きでうちストレート果汁製造量を記入すること。

イ 加工処理の計画

(ア) 原料処理及び製品製造の年次計画

加工施設名	原料果実名 (製品名)	原料処理量 (t)					製品製造量 (t)					備考	
		年	年	年	年	年	年	年	年	年	年		
合計													

- 注) 1 1日当たり8時間として処理能力を記入すること。
 2 実施年度以降5カ年について記入すること。
 3 製品が果汁の場合は5分の1濃縮換算量を記入し、()書きでうちストレート果汁の製造量を記入すること。
 4 備考欄に原料の自県産、他県産別の購入予定数量を記入すること。

(イ) 月別製品製造計画

区分	単位	1日当 たり製 造能力	月 別 製 造 量												備考	
			月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月		
濃縮果汁 凍結濃縮	1/5t															
ストレート果汁	t															
副産物																

- 注) 1日当たり8時間として製造能力を記入すること。

(ウ) 管理運営計画

- 注) 当該事業で導入する施設等の管理主体、管理体制等について記入する。

ウ 収支計画

区 分	当該事業 実施前年度	実施年度	年度	年度	年度	備 考
1. 売上高 2. 売上原価 うち製造原価 3. 販売費及び一般管理費 4. 営業利益 (1-2-3)						
営業外収支 (損失) 経常利益 (損失)						

注) かんきつ果汁部門について、記入すること。

エ 製造原価の見通し

項 目	現 状	年度	備 考
1. 原材料費 2. 製造労務費 3. 製造経費 4. 製造管理費 5. 副産物収入			
合 計			

- 注) 1 計画年度は収支計画の最終計画年度と同様とすること。
 2 原料果汁の製造原価(1/5濃縮換算)について記入すること。
 3 備考欄に主な諸元について記入すること。

オ 添付資料

- (ア) 工場設置位置図・・・5万分の1の地図に示すこと。
 (イ) 当該事業と既存の施設との関連を明らかにした配置図と施設周辺見取図
 (電気委外線、給排水路、道路幅等を含む。)
 (ウ) 製品製造工程図
 (エ) 施設導入、工場の合理化、新製品等の開発に関する全体計画。
 (オ) 果汁工場の体質強化に係る基本計画。
 (カ) その他説明参考資料。

2 経費の配分

事業種目 (取組名)	事業に要する (又は要した) 経費	負担区分			摘要
		補助金	自己負担	その他	
	円	円	円	円	

注) 1 負担区分その他の欄については、内訳を摘要欄に記載すること。

2 事業種目の内訳として () 書きで取組名ごとに記載すること。

3 事業完了(予定) 年 月 日

4 収支予算

(1) 収入の部

区分	本年度予算額 (又は 本年度精算額)	前年度予算額 (又は 本年度予算額)	比較増減		備考
			増	減	
補助金 自己負担金 その他	円	円	円	円	
計					

注) 備考の欄にその他の内容を記入すること。

(2) 支出の部

区分	本年度予算額 (又は 本年度精算額)	前年度予算額 (又は 本年度予算額)	比較増減		備考
			増	減	
	円	円	円	円	
計					

別添 11-2

国産果実競争力強化事業実績報告書兼支払請求書

番 号
年 月 日

都道府県法人理事長 殿

住 所
事業実施者名
代表者氏名

実施要領の別紙3 果樹農業生産力増強総合対策のⅢの第1の2の(5)のAに基づき、別添のとおり補助金の実績を報告します。

併せて、下記のとおり補助金の支払を請求します。

記

- 1 交付決定額 円
- 2 補助金実績額及び支払請求額 円
- 3 補助金実績額及び請求額 内訳

事業種目	事業費	補助金実績額及び請求額	摘要
	円	円	
計	円	円	

注) 別添は、別添 11-1 に準じるものとする。

別添 12-1

加工・業務用果実安定供給連携体制構築事業補助金交付申請書

番 号
年 月 日

都道府県法人理事長 殿

住 所
事業実施者名
代表者氏名

実施要領の別紙3 果樹農業生産力増強総合対策のⅢの第1の3の(6)のアの(ア)に基づき、下記のとおり補助金の交付を申請します。

注) あて先は、事業実施者が都道府県の区域を越えて事業を行う場合にあっては指定法人とすること。

記

- 1 補助金交付申請額 円 (変更前 円)
- 2 補助金交付申請額 内訳

事業内容	事業費	補助金交付額	摘要
	円	円	
計	円	円	

(注)別添として事業実施計画書を添付する。添付する事業実施計画書は、第1の4の(4)のAからEまでの取組に準じた別添様式を活用し、作成すること。

(別添 12-1-1)

加工・業務用果実安定供給連携体制構築事業実施計画
(国産果実需要適応型取引手実証の取組)

1 総括表

事業内容	事業費	負担区分		備考
		補助金	事業実施者	
	円	円	円	

2 事業の目的

--

3 事業の内容

(1) 供給・販売計画の作成

ア 検討会の開催

検討会	開催時期	検討項目 及び内容	参集者の構成 及び人数	備考

イ 販売戦略検討のための需要調査

調査地域等	対象品目 ・品種	調査項目及び内容	実施時期	備考

ウ 生産・流通コスト分析

調査対象	対象品目 ・品種	調査項目及び内容	実施時期	備考
①生産 ○○ ②流通 ○○				

(2) 計画的な取引の実施

ア 安定供給に向けた取組

項目	取組内容	備考

イ 流通の効率化・低コスト化への取組

項目	取組内容	備考

ウ 国産果実の需要拡大への取組

項目	取組内容	備考

(3) 報告書の作成

報告書等の名称	内容等	作成部数等	備考
	○供給・販売計画 需要調査 生産・流通コスト分析 ○計画的な取引の実施 ・安定供給に向けた取組 ・流通の効率化、低コスト化 に向けた取組 ・国産果実の需要拡大に向 けた取組 ○総括	部	

4 経費の配分

事業種目 (取組名)	事業に要する (又は要した) 経費	負担区分			摘要
		補助金	自己負担	その他	
	円	円	円	円	
計	円	円	円	円	

注) 負担区分のその他の欄については、内訳を摘要欄に記載すること。
 事業種目の内訳として、()書きで取組名ごとに記載すること。

5 事業完了予定年月日

年 月 日

6 収支予算

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比較増減		備考
			増	減	
補助金 自己負担金 その他	円	円	円	円	
計	円	円	円	円	

注) 備考の欄その他の内容を記載すること。

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比較増減		備考
			増	減	
補助金 自己負担金 その他	円	円	円	円	
計	円	円	円	円	

(別添 12-1-2)

加工・業務用果実安定供給連携体制構築事業実施計画
(加工原料用果実の選別、出荷の取組)

事業実施者名
担当者所属、氏名
電話番号
メールアドレス

1 事業の目的及び成果目標

(1) 事業の目的

--

(2) 成果目標

--

(注) 加工原料用果実の出荷により、農業所得(再生産)に繋がる具体的な目標を詳細に記載すること。

2 協議会の構成

(1) 協議会の名称

--

(2) 所在地

--

(3) 協議会構成員

名 称	所 在 地	業 種	事 務 局

注) 事務局欄には、協議会の事務局となる構成員に○印を記載する。

		円/kg	円/kg	円/kg	円/kg	円/kg	
--	--	------	------	------	------	------	--

(2) 当該年の取引価格の引き上げに係る目標

果実名	前年産（〇〇年産）				当該年産（〇〇年産）				備考	
	等級 区分	内容	取引 価格 ①	長期契約 に基づく 出荷数量	区分	内容	取引価格			長期契約 に基づく 出荷数量
							②	②-①		

注) 1 備考欄には、品種、品質又は大きさ等に基づく取引を新たに導入した年若しくは既存の取引区分に新たに加工用果実の区分を加えた年を記入する。

2 前年産において、当該年産と同様の区分で取引が行われていた場合には、適宜当該年産の欄にある点線を前年産にも伸ばして記述する。

6 事業の内容

(1) 加工原料用果実選別出荷促進費の内訳

掛増し経費の区分	掛増しの具体的内容	対象数量	掛増し経費	備考
庭先選別経費		kg	円	
搬出経費		kg	円	
検査経費		kg	円	
保管経費		kg	円	
・・・		kg	円	
計			円	

注) 掛増し経費の区分欄については、適宜追加して記載する。

(2) 加工原料用果実選別出荷促進費の交付

果実名	加工用果実出荷数量	掛増し単価 (上限 30 円/kg)	交付総額

	kg	円/kg	円

注) 1 掛増し単価は6の(1)の掛増し経費の計を加工用果実出荷数量で除して得る。

2 掛増し単価は、キログラムあたり 30 円を上限とする。

3 交付総額は加工原料用果実出荷数量と掛増し単価の差額を乗じた額を記入する。

(3) 取組の成果及び報告書の作成等に係る取組

① 検討会

検討会	開催時期	検討項目及び内容	参集者の構成及び人数	事業費	備考
	年 月 日		人	円	

注) 開催時期の欄は、日程が具体的に決まっていない場合は、○月○旬と記入する。

② 報告書等の作成

報告書等の名称	内容等	作成部数等	事業費	備考
		部	円	

7 経費の配分

事業に要する(又は要した)経費	負担区分			摘要
	補助金	自己負担	その他	
円	円	円	円	

注) 摘要の欄には、負担区分のその他の額の内訳等を記入する。

8 事業完了予定年月日 (又は完了年月日)

9 収支予算 (又は精算)

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額(又は本年度精算額)	前年度予算額 (又は本年度 予算額)	比 較 増 減		備 考
			増	減	
補助金 自己負担金 その他	円	円	円	円	
計					

注) 備考の欄には、その他の内訳等を記入する。

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額 (又は本年度精 算額)	前年度予算額 (又は本年度 予算額)	比 較 増 減		備 考
			増	減	
	円	円	円	円	
計					

(添付書類)

実施計画には以下の(1)～(6)を添付する。

- (1) 規約・役員名簿等
- (2) 長期契約書の写し(参考:別紙1)
- (3) 生産者団体等と長期契約先との合意書の写し(参考:別紙2)
- (4) 加工原料用果実価格引き上げ計画の写し(参考:別紙3)
- (5) 掛増し経費・単価を算定する(した)根拠となる資料の写し
- (6) その他、都道府県法人が必要と認める書類

(別添 12-1-3)

加工・業務用果実安定供給連携体制構築事業実施計画
(省力型技術体系等の導入の取組)

事業実施者名
担当者所属、氏名
電話番号
メールアドレス

1 事業の目的及び目標

(1) 産地の現状と課題

--

(2) 取組内容

--

(注) 本事業の目標も含めて記載すること。

(3) 対象品目と用途

対象品目	用途

(注) 用途の欄には、「カットフルーツ用」などと具体的な用途及び実需者が求める品質等を記載する。

2 総括表

事業内容	事業費	負担区分			備考
		補助金	自己負担	その他	
	円	円	円	円	
合計					

3 目標

指標項目	現状 (○年度)	実績 (○年度)	目標 (○年度)
労働時間（梱包作業を含む）（時間）			
単価（円/kg）			
単収の向上 (kg/10a)			
収益性（円/10a）			

(注) 指標項目に記載する内容は、いずれか一つ以上を目標として選択する。なお、これらの項目以外で本事業の取組を達成するための目標を掲げる場合は、新たに欄を設けることができるものとする。

4 省力型栽培技術体系等の実証と内容

実証課題	実証内容	実証面積 (a)	備考

(注) 備考欄には実証場所について記載すること。

5 果実の品質評価に係る取組

(対象品目：)

評価項目	評価内容	備考

(注) 評価品目ごとに表を整理し、必要に応じて表を増やすこと。

6 事業の内容

(1) 省力型栽培技術体系等の導入に係る経費の内訳

① 省力型栽培技術体系等の実証に係る経費

費目	単価・数量	経費	備考

		円	
計		円	

②果実の品質評価に係る経費

対象品目	評価内容	経費	備考
		円	

(2) 取組の成果、報告書の作成等に係る取組

① 検討会

検討会	開催時期	検討項目及び内容	参集者の構成 及び人数	事業費	備考
	年 月 日		人	円	

注) 開催時期の欄は、日程が具体的に決まっていない場合は、〇月〇旬と記入する。

② マニュアル・調査報告書等の作成及び配布等

報告書等の名称	内容等	作成部数等	事業費	備考
		部	円	

7 経費の配分

事業に要する(又は要した)経費	負担区分			摘要
	補助金	自己負担	その他	
(検討会の開催)	円	円	円	
(省力型栽培技術体系等の実証)				

(果実の品質評価)				
(マニュアル等の作成)				

注) 摘要の欄には、負担区分のその他の額の内訳等を記入する。

8 事業完了予定年月日 (又は完了年月日)

9 収支予算 (又は精算)

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額(又は本年度精算額)	前年度予算額(又は本年度予算額)	比較増減		備 考
			増	減	
補助金 自己負担金 その他	円	円	円	円	
計					

(注) 備考の欄には、その他の内訳等を記入する。

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額(又は本年度精算額)	前年度予算額(又は本年度予算額)	比較増減		備 考
			増	減	
	円	円	円	円	
計					

(添付書類)

実施計画には以下の(1)～(4)を添付する。

- (1) 定款 (又は規約) ・役員名簿等
- (2) 実証予定の省力化技術体系の根拠 (現状及び設定した目標の実現性が詳細にわかるものを含む) となる資料 (研究成果等)
- (3) 省力型栽培技術体系等の実証に必要な機械・機器 (レンタル・リース) 等について、メーカー、型番、能力等が記載された資料
- (4) その他、都道府県法人が必要と認める書類

(別添 12-1-4)

加工・業務用果実安定供給連携体制構築事業実施計画
(有機果樹栽培の導入の取組)

事業実施者名
担当者所属、氏名
電話番号
メールアドレス

1 事業の目的及び目標

(1) 現状と課題

--

(2) 取組内容

--

(注) 本事業の目標も含めて記載すること。

(3) 対象品目と用途

対象品目	用途

(注) 用途の欄には、「カットフルーツ用」などと具体的な用途及び実需者が求める品質等を記載すること。

2 総括表

事業内容	事業費 又は 助成単価	負担区分			備考
		補助金	自己負担	その他	
ア 検討会の開催、 事例調査等	円	円	円	円	
イ 有機栽培への 転換	15万円/10a				a
合計					

(注) 事業内容が有機栽培への転換の場合、備考欄へ対象面積(単位:a)を記載すること。

3 事業の内容

(1) 検討会の開催、事例調査

ア 検討会の開催

検討会	開催時期	検討項目及び内容	参集者の構成及び人数	備考

イ 事例調査

調査地域等	対象品目・品種	調査項目及び内容	実施時期	備考

(注) 実施時期の欄は、日程が具体的に決まっていない場合は、○月○旬と記入する。

(2) 有機栽培への転換の実施

対象品目・品種	対象面積(単位：a)	取組内容	実施時期	備考

(注1) 取組内容の欄には、有機栽培への転換に要する施肥・防除等に必要な導入資材について記載するとともに、資材導入以外での取組についても記載すること。

(注2) 備考欄には、有機栽培へ転換する園地の場所について記載すること。

(3) マニュアル・調査報告書の作成及び配布等

報告書等の名称	内容等	作成部数等	備考
		部	

4 経費の配分

事業に要する(又は要した)経費	負担区分			摘要
	補助金	自己負担	その他	
(検討会の開催)	円	円	円	
(事例等調査)				
(有機栽培への転換)				
(マニュアル等の作成)				

(注) 摘要の欄には、負担区分のその他の額の内訳等を記入する。

5 事業完了予定年月日 (又は完了年月日)

6 収支予算 (又は精算)

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額(又は本年度精算額)	前年度予算額(又は本年度予算額)	比較増減		備 考
			増	減	
補助金	円	円	円	円	
自己負担金					
その他					
計					

(注) 備考の欄には、その他の内訳等を記入する。

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額(又は本年度精算額)	前年度予算額(又は本年度予算額)	比較増減		備 考
			増	減	
	円	円	円	円	
計					

(添付書類)

実施計画には以下の(1)～(3)を添付する。

- (1) 有機栽培への転換に取り組む場合、事業実施園の配置図
- (2) 有機栽培への転換に取り組む場合、導入する資材等について、メーカー、能力等が記載された資料
- (3) その他、都道府県法人が必要と認める書類

別添 12-2

加工・業務用果実安定供給連携体制構築事業補助金実績報告書兼支払請求書

番 号
年 月 日

都道府県法人理事長 殿

住 所
事業実施者名
代表者氏名

実施要領の別紙3果樹農業生産力増強総合対策のⅢの第1の3の(7)のAに基づき、別添のとおり加工原料安定供給連携体制構築事業補助金の実績を報告します。

併せて、下記のとおり補助金の支払を請求します。

注) あて先は、事業実施者が都道府県の区域を越えて事業を行う場合にあっては指定法人とすること。

記

1 交付決定額 円

2 補助金支払請求額 円

3 補助金支払請求額 内訳

事業内容	事業費	補助金支払請求額	摘要
	円	円	
計	円	円	

注1) 加工・業務用果実安定供給連携体制構築事業補助金の実績の報告書は、事業実施計画書に準じて作成すること。

注2) 加工原料用果実の選別、出荷の取組の事業実績報告兼補助金支払請求を行う場合は、別添として以下のものを添付する。

(1) 口座振込伝票等の加工専用果実選別出荷促進費の支払いが確認できる書類の写

し

- (2) 長期取引先との合意により行う取組を実施した場合は、口座振込伝票等の支払が確認できる書類の写し
- (3) 事業実施者の振込先口座名義、口座番号等を記載した書類

別添 13-1 (Ⅲの第2の4の(1)のア関係)

果実輸送技術実証支援事業補助金交付申請書

番 号
年 月 日

都道府県法人理事長 殿

住 所
事業実施者名
代表者氏名

実施要領別紙3のⅢの第2の4(1)アに基づき、下記のとおり果実輸送技術実証支援事業補助金の交付を申請します。

(注) 宛先は、事業実施者が都道府県の区域を越えて事業を行う場合にあっては指定法人とすること。

記

1 補助金交付額

円

2 補助金交付申請額 内訳

事業種目	事業費	補助金交付額	摘要
	円	円	
合計	円	円	

(注) 別紙として事業実施計画書を添付する。

(別紙)

果実輸送技術実証支援事業実施計画（実績）

1 総括表

事業内容	事業費	負担区分		備考
		補助金	自己負担金	

注) 自己負担金には、仕入控除消費税額を含む。(以下同じ。)

2 事業の目的

--

3 事業の内容

(1) 果実輸出効率化支援事業

ア 検討会の開催

(ア) 検討会の構成

検討会の概要 (目的、構成員の選定理由等)	構成員		備考
	氏名	所属・役職	

(イ) 検討会の内容

開催時期 (年月日)	開催場所	検討内容	備考

イ 効率的な輸出の実証試験

(ア) 効率的な輸出の概要

--

(イ) 効率的な輸出に係る関係者の調整

調整の概要	調整関係者		備考
	氏名	所属・役職	

(ウ) 調整の内容

開催時期 (年月日)	開催場所	検討内容	備考

(エ) 効率的な輸出の実証試験

実証時期	実証場所	実証課題	実証内容	備考
年 月～ 年 月				

ウ 報告書の作成

報告書の名称	内容	作成部数・配布先	備考

(2) 果実輸出鮮度保持技術導入支援事業

ア 検討会の開催

(ア) 検討会の構成

検討会の概要 (目的、構成員の選定理由等)	構成員		備考
	氏名	所属・役職	

(イ) 検討会の内容

開催時期 (年月日)	開催場所	検討内容	備考

イ 技術等の開発・応用による試作等

(ア) 試作等の概要

--

(イ) 試作等の内容

試作時期	試作場所	試作課題	試作内容	備考
年 月～ 年 月				

注) 備考に改良及び開発に必要な材料、資材等を記載すること。

ウ 技術等の開発・応用による試作等の実証試験

実証時期	実証場所	実証課題	実証内容	備考
年 月～ 年 月				

エ 報告書の作成

報告書の名称	内容	作成部数・配布先	備考

4 経費の配分

事業種目	事業に要する（又は要した）経費	負担区分			摘要
		補助金	自己負担金	その他	
合計					

注) 1 負担区分その他の欄については、内訳を摘要欄に記載すること。

2 事業種目の内訳として括弧書きで取組名ごとに記載すること。

5 事業完了予定年月日（又は完了年月日）

6 収支予算

(1) 収入の部

区分	本年度予算額 (又は本年度精算額)	前年度予算額 (又は本年度予算額)	比較増減		摘要
			増	減	
補助金					
自己負担金					
その他					
合計					

注) 負担区分その他の欄については、内訳を摘要欄に記載すること。

(2) 支出の部

区分	本年度予算額 (又は本年度精算額)	前年度予算額 (又は本年度予算額)	比較増減		摘要
			増	減	
合計					

(添付書類)

実施計画には、事業実施者が生産出荷団体と連携して取り組む物流事業者、輸出事業者または資機材製造業者等の場合は別添1を、生産者、出荷団体、物流事業者、輸出事業者、資機材製造業者等で構成する協議会の場合は別添2を添付する。

(別添1)

連 携 合 意 書 (例)

〇〇〇 (以下「甲」という。)と□□□ (以下「乙」という。)は、乙が事業実施者として申請する実施要領別紙3のⅢの第2の2の生産出荷団体が連携先との合意により行う取組について、次のとおり合意した。

連携概要

- 1 連携対象品目、輸出先国・地域
対象品目 〇〇〇
輸出先国・地域 〇〇〇
- 2 連携の目標
〇〇〇
- 3 連携の課題
〇〇〇
- 4 連携の内容及び連携期間
連携内容 〇〇〇
連携期間 令和〇〇年〇月～〇〇年〇月
- 5 その他
〇〇〇

以上のとおり、甲と乙の間に事業実施に関する合意が成立した証として、本書を2通作成し、甲と乙それぞれ署名の上各1通保持する。

令和 年 月 日

(甲) 生産出荷団体 住所
会社名
代表者名
(自署又は記名)

(乙) 事業実施主体 住所
会社名
代表者名
(自署又は記名)

(注)申請に当たっては、甲、乙の事業内容、規模、事業実績に係る資料を添付すること。

(別添2)

協議会の概要

1 協議会の名称

(注) ふりがなを付すこと。

2 主たる事務所の所在地

3 代表者の役職名及び氏名

(注) ふりがなを付すこと。

4 設立年月日

5 事業年度 (月～ 月)

6 協議会の構成員

名称	所在地	代表者氏名	業種	事務局

(注) 事務局欄には、協議会の事務局となる構成員に○印を記載する。

7 設立目的

8 事業の内容

(注) 当該団体の当該事業年度における事業実施計画の内容 (申請する活動を含む。) を記入すること。

9 特記すべき事項

10 添付書類

- (1) 定款、組織規程、経理規程等の組織運営に関する規約 (又はこれに準ずるもの)、総会等で承認されている直近の事業計画、収支予算等
- (2) 新たに設立された団体にあつては、設立に関する関係者の協議・調整等を示す書類 (設立総会資料、設立総会議事録等)
- (3) その他参考資料

別添 13-2 (Ⅲの第2の5の(1)関係)

果実輸送技術実証支援事業実績報告書兼補助金支払請求書

番 号
年 月 日

都道府県法人理事長 殿

住 所
事業実施者名
代表者氏名

実施要領別紙3のⅢの第2の5(1)に基づき、別紙のとおり果実輸送技術実証支援事業実績を報告します。併せて、下記のとおり補助金の支払を請求します。

注) 宛先は、事業実施者が都道府県の区域を越えて事業を行う場合にあっては指定法人とすること。

記

1 交付決定額

円

2 補助金実績額及び請求額

円

3 補助金実績額及び請求額内訳

事業種目	事業費	補助金実績額及び請求額	摘要
	円	円	
合計	円	円	

(注) 1 別紙は、別添 13-1 の別紙に準じるものとする。

2 別添として事業実施者の振込先口座名義、口座番号等を記載した書類を添付する。

別添 14-1 (IVの第2の1(4)のア関係)

果汁特別調整保管等対策事業（果実製品の調整保管又は果実の産地廃棄）補助金交付申請書

番 号
年 月 日

都道府県法人
理事長 殿

住 所
事業実施者名
代表者氏名

貴協会の業務方法書第 条に基づき、下記により果汁特別調整保管等対策事業（果実製品の調整保管又は果実の産地廃棄）補助金の交付を申請します。

記

1 補助金交付額

今回交付額
前回交付額
残 額
計

2 今回交付額内訳

(果実製品の調整保管の場合)

果実製品の種類	事業費	補助金交付額	備考
	円	円	
計			

(果実の産地廃棄の場合)

選果場名	事業費	補助金交付額	備考
	円	円	
計			

(別紙 (別添 14-1 (IVの第2の1 (4) のア関係)))

果汁特別調整保管等対策事業実施計画

1 事業の内容

(果実製品の調整保管の場合)

果実製品の種類	調整保管場所	数量			果汁1トン当たり調整保管単価②	補助対象事業費①×②	調整保管期間		製造時期	備考
		保管計画数量	通常保管数量	特別調整保管計画数量①			始期	終期		
		トン	トン	トン	円	千円	年 月 日	年 月 日	年 月 日 ~ 年 月 日	繰越在庫量 年 月 日現在 (トン) 年産搾汁(缶詰製造) 実績見込み (トン) 在庫量 年 月 日現在 (トン) 果汁調整保管単価=果汁等 製造経費〇〇円×〇〇(利率) +倉庫料〇〇円
合計										

- 注) 1 果実製品の種類欄には、果汁又は缶詰の区分を記入すること。なお、果汁については濃縮果汁とストレート果汁の名称を記入すること。
- 2 調整保管の始期及び終期が数回に分かれる場合は、最初の回と最終の回の始期と終期をそれぞれ記入すること。
- 3 年月日現在繰越在庫量は前年度までの搾汁(缶詰)在庫量とし、当該〇年産に係る搾汁分(缶詰製造分)は含まない数量とすること。

(果実の産地廃棄の場合)

選果場名	品質・規格	選果方法	廃棄数量 (A)	廃棄処理料金 (B)	産廃処理経費 (C=A×B)	運搬費 (D)	事業費 (C+D)	備考
			(kg)	(円/kg)	(円)	(円)	(円)	
合計								

注) 備考の欄には、産業廃棄物等処理施設の名称、住所を記入すること。

2 経費の配分

事業の内容	事業に要する(又は要した)経費	負担区分			備考
		県基金補助金	自己負担	その他	
果実製品の調整保管の場合	円	円	円	円	
果実の産地廃棄の場合					
合計					

注) 負担区分その他の欄については、内訳を摘要欄に記載すること。

3 事業完了(予定)年月日

4 収支予算

(1) 収入の部

事業の内容	区分	本年度予算額 又は 本年度精算額	前年度予算額 又は 本年度予算額	比較増減		備考
				増	減	
果実製品の調整保管の場合	県基金補助金 自己負担金 その他	円	円	円	円	
果実の産地廃棄の場合	県基金補助金 自己負担金 その他					
	計					

注) 備考の欄にその他の内容を記入すること。

(2) 支出の部

事業種目	本年度予算額 又は 本年度精算額	前年度予算額 又は 本年度予算額	比較増減		備考
			増	減	
果実製品の調整保管の場合	円	円	円	円	
果実の産地廃棄の場合					
合計					

5 都道府県・都道府県法人との連携

注) 本事業の推進体制を記載すること。

6 その他本事業の効率的な実施に必要な措置

別添 14-2 (IVの第2の1 (5) のア関係)

果汁特別調整保管等対策事業（果実製品の調整保管又は果実の産地廃棄）実績報告書

番 号
年 月 日

都道府県法人
理事長 殿

住 所
事業実施者名
代表者氏名

貴協会の業務方法書第 条に基づき、別紙のとおり果汁特別調整保管等対策事業（果実製品の調整保管又は果実の産地廃棄）の実績を報告します。

(別紙)

果汁特別調整対策事業（果実製品の調整保管又は果実の産地廃棄）実績報告書

別添 14-1 (別紙) に準じる。

パインアップル構造改革特別対策事業補助金交付申請書

番 号
年 月 日

都道府県法人
理事長 殿

住 所
事業実施者名
代表者氏名

貴協会の業務方法書第 条に基づき、下記によりパインアップル構造改革特別対策事業補助金の
交付を申請します。

記

- 1 補助金交付額
 - 今回交付額
 - 前回交付額
 - 残 額
 - 計

2 今回交付額内訳

事業種目	事業費	補助金交付額	摘要
	円	円	
計			

(別添)

パインアップル構造改革特別対策事業実施計画

1 事業の内容

(1) パインアップル優良種苗緊急増殖供給事業

ア 全体計画

区 分	事業内容	事業量	単 価	事業費	摘 要
1 優良種苗増殖事業 (1) 増殖事業 (2) 育苗事業 (3) 配布事業 (4) 施設・機械の整備			円	千円	
2 優良種苗供給推進事業					
計					

注) 1 優良種苗増殖事業については、増殖事業、育苗事業、配布事業及び施設・機械の整備に区分するとともに、品種ごとに明細がわかるように整理すること。

2 単価算出の基礎となった経費の明細を添付すること。

3 施設・機械の整備については、事業内容欄に名称、構造、規模、処理能力等を記載するとともに、カタログ、規模決定根拠等事業内容の説明に必要な書類を添付すること。

イ 優良種苗緊急増殖事業

(ア) 増殖事業計画

品種名	事業実施場所	増殖ほ設置面積 m ²	増殖処理		処理母茎数 (うち買上本数) 本 (本)	増殖ほ植付個数 個	育苗用苗生産量 本	備考
			作業名	員数 人日				
小計								
小計								
合計								

注) 処理作業は増殖処理作業だけを記載し、別紙に母茎等の抜き取り及び買上げから、育苗用苗の育苗ほ渡しまでの必要員数を作業ごとに整理し、添付すること。

特に優良種苗の種類が複数の場合は、品種毎の明細がわかるよう整理すること。

(イ) 育苗ほ設置管理計画

品種名	項目 区分	設置場所	設置面積			植栽 本数	配布用苗 生産量	備考
			直営	委託	計			
	1年生 育苗ほ	市(町村) 地区	a	a	a	千本		
	小計							

	2年生 育苗ほ							
	小計							
計								
	1年生 育苗ほ							
	小計							
	2年生 育苗ほ							
	小計							
合計								

注) 1 年次別、品種別に記載すること。

2 備考欄には、育苗ほの定植時期及び受託者の氏名等を記載すること。

(ウ) 種苗配布計画

品種名	配布場所	配布本数	備考
	市(町村) 地区	本	
計			
計			
合計			

注) 1 品種別に記載すること。

(エ) 施設・機械の利用計画

施設・機械名	仕様・型式	利用期間	延べ 利用日数	月別利用計画						年間生産 ・利用量	備考
				月	月	月	月	月	月		
		月 旬 ~ 月 旬	日								

注) 1 利用計画について施設は生産量(本、kg)、機械は利用面積もしくは稼働面積(a)等を記入すること。

2 施設・機械の管理運営規程(案)を添付すること。

3 機械については、備考欄へ格納場所を記入すること。

(オ) 添付資料

- a 増殖ほ及び育苗ほの管理要領（案）及び管理を委託する場合には委託契約書（案）
 なお、同一の委託先に複数の品種が委託される場合は、品種毎にどれだけ委託するのか明確にすること。
- b 増殖処理実施場所、育苗ほ設置場所及び本年度に当該事業によって優良品種の配布を受ける地区を図示した図面。
 なお、優良品種が複数の場合は、品種毎に識別して図示すること。
- c 配布決定の方法等種苗の配布に必要な事項を定めた配布要綱。

ウ 優良種苗供給推進事業

(ア) 推進協議会の構成及び推進体制図

(イ) 推進協議会開催計画

開催年月日	開催場所	事業主体 (主催者)	出席構成員	主要協議及び検討事項

(ウ) パインアップル優良種苗の普及の現状及び計画

区 分	年(現状)	年	年	目標年	備 考
品種名〇〇〇 栽培面積 (ha)					
(普及率(%))	()	()	()	()	
うち当該年度新植面積 (ha)					
うち事業による供給面積(ha) (供給本数(千本))	()	()	()	()	
品種名〇〇〇 栽培面積 (ha)					
(普及率(%))	()	()	()	()	
うち当該年度新植面積 (ha)					
うち事業による供給面積(ha) (供給本数(千本))	()	()	()	()	
合 計 栽培面積 (ha)					
うち当該年度新植面積 (ha)					
うち事業による供給面積(ha) (供給本数(千本))	()	()	()	()	

- 注) 1 品種ごとに区分して記載すること。
 2 普及率欄には、栽培面積全体に占める当該品種栽培面積の割合を記載すること。

(2) パインアップル産地構造改革事業

ア 全体計画

区 分	事業内容	事業量	単 価	事業費	摘 要
1 推進事業 (1) 産地構造改革検討会の開催			円	千円	

前年実績 (〇〇年)						()	()				
当該年計画 (〇〇年)						()	()				

注) 1 用途別仕向量の缶詰用、加工用の欄には () 書きで缶詰製造量 (3号缶3ダース入を1ケース (20.412kg) として換算した数量 (千ケース) を、果汁用の欄には () 書きで果汁製造量 (5分の1濃縮換算、数量 (トン)) を記入する。
2 果汁用は全果処理分とする。

(e) 出荷計画

前年実績・当該年計画 (〇〇年)

用途別仕向	月 別 出 荷 数 量 (トン)												計
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1 生食用 ((1)+(2))													
(1) 沖縄本島分													
〇〇市場													
〇〇市場													
その他													
(2) 八重山分													
〇〇市場													
〇〇市場													
その他													
2 加工用 ((1)+(2))													
(1) 沖縄本島分													
缶詰用													
(缶詰製造量(千ケース))	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
(果汁製造量(トン))	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
缶詰用													
(果汁製造量(トン))	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
その他													
(2) 八重山分													
缶詰用													
(缶詰製造量(千ケース))	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
(果汁製造量(トン))	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
缶詰用													
(果汁製造量(トン))	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
その他													
3 合計 (1+2)													

注) 1 前年実績及び当該年計画について作成すること。
2 缶詰製造量は3号缶3ダース入を1ケース (20.412kg) として換算した数量、果汁製造量は5分の1濃縮換算数量とする。
3 缶詰用の欄の果汁は缶の副産物に由来するものであり、果汁用の欄の果汁は全果処理分である。

(f) 改植計画

現 状		改植実施計画		備 考
品種名	面 積	品種名	面 積	
	ha		ha	

注) 備考欄には改植する地番等実施地区を明記すること。

(イ) 生食用パイナップルの普及に係る指導計画

名称	内容	実施時期	実施場所	備考

ウ 栽培管理改善事業

(ア) 事業実施地区の改善計画

地区名 ()

	現 状 (年)	改善計画 (年)	備 考
栽培農家戸数 (戸)			
うち担い手 (戸)			
栽培面積 (ha)	()	()	
(うち生食専用品種)			
うち担い手 (ha)	()	()	
(うち生食専用品種)			
平均単収 (kg/10a)			
うち担い手 (kg/10a)			
出荷数量 (t)	()	()	
(うち生食用)			
うち担い手 (t)	()	()	
(うち生食用)			

注) 1 事業実施地区ごとに作成すること。
2 備考欄に担い手の定義を記載すること。

(イ) 栽培管理改善

(a) 全体計画

改善内容	事業内容	実施時期	事業量	受 益		単 価	事業費	備 考
				農家戸数	受 益 面 積			
展示ほの設置				戸	a, ha		円	
栽培様式の改善								
栽培管理の改善								
施設・機械の整備								
事業費計								(A) + (B)
内	施設・機械整備以外							(A)

訳	施設・機械整備							(B)
その他特記すべき事項								

- 注) 1 イの(ア)における検討内容に基づき補助対象となるものについてのみ記入すること。
 2 事業量欄は、導入する技術等に応じて10a当たり又は実数で記入すること。
 3 受益農家戸数欄及び受益面積欄は、実戸数及び実面積を記入すること。
 4 展示ほの設置において、品種展示を実施する場合は、備考欄に展示する品種及び管理委託先の団体・農家名等について記入するとともに、栽培暦を添付すること。

(b)施設・機械の利用計画

施設・機械名	仕様・型式	利用期間	延べ 利用日数	月別利用計画						年間生産 ・利用量	備 考
				月	月	月	月	月	月		
		月 旬 ～ 月 旬	日								

- 注) 1 利用計画について施設は生産量(本、kg)、機械は利用面積もしくは稼働面積(a)等を記入すること。
 2 施設・機械の管理運営規程(案)を添付すること。
 3 機械については、備考欄へ格納場所を記入すること。

エ 生食用パイナップル緊急定着事業

(ア)改植を行う生食用パイナップル

品種名	特 徴	栽培面積 (年)	備 考
		ha	

- 注) 1 事業実施地区における標準的な栽培暦を添付すること。
 2 備考欄にその品種のシェアを記入すること。

(イ)改植計画

現 状		改植実施計画			備 考
品種名	面 積	品種名	面 積	事業費	
	ha		ha	千円	

- 注) 1 事業実施位置図及び当該改植計画が位置づけられた産地計画又はこれに準ずる計画を添付すること。
 2 事業費については、経費の明細を添付すること。

2 経費の配分

事業種目	事業に要する 経費	負 担 区 分			摘 要
		県基金補助金	自己負担	その他	
	円	円	円	円	
計					

3 事業完了予定年月日

4 収支予算

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額 〔又は 本年度精算額〕	前年度予算額 〔又は 本年度予算額〕	比 較 増 減		備 考
			増	減	
補助金 自己負担金 その他	円	円	円	円	
計					

注) 備考欄にその他の内訳を記入すること。

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額 〔又は 本年度精算額〕	前年度予算額 〔又は 本年度予算額〕	比 較 増 減		備 考
			増	減	
	円	円	円	円	
計					

別添 15-2

パインアップル構造改革特別対策事業実績報告書

番 号
年 月 日

都道府県法人
理事長 殿

住 所
事業実施者名
代表者氏名

貴協会の業務方法書第 条に基づき、別添のとおりパインアップル構造改革特別対策事業の実績を報告します。

(別添)

パインアップル構造改革特別対策事業実績報告書

別添 15-1 に準ずる。

注) 付属資料として次のものを添付すること。

- 1 本事業を実施するため機械施設等を導入した場合には、その仕様書、領収書、出来高設計書及び新品であることを証する書類。
- 2 消費宣伝を実施した場合には、宣伝を行ったことを証する書類（放送確認証等）

**果樹農業生産力増強総合対策
産地構造転換パイロット事業実施計画（兼実績報告）書
【パイロット実証事業】**

- 事業実施年度： 令和○年度
- 目標年度： 令和○年度

第1 事業実施主体の概要

- 1 コンソーシアム
コンソーシアム名： ○○コンソーシアム
コンソーシアムの構成員： ○○県、株式会社○○、○○農業協同組合
対象となる産地の市町村： ○県○市・○市、○府○町
- 2 コンソーシアムの中核機関
中核機関： 株式会社○○
中核機関の代表者名：
- 3 コンソーシアムの事務局
事務局： 株式会社○○ ○○部○○課
担当者名：
住所：〒
電話番号：
メールアドレス：

第2 事業概要

- 1 事業目的
- 2 構築する生産供給体制モデルの名称及び概要
- 3 成果目標
 - (1) 目標年度
※ 事業開始年度の翌年度から起算して8年以内とする。
 - (2) 成果目標
※ 実施要領で定める成果目標に基づき設定すること。
記載例：○○が可能な○○モデルを構築するとともに、コンソーシアムの労働生産性を○万円/人から○万円/人に向上させる。
 - (3) 成果目標の具体的な内容、現状数値・目標数値の設定根拠
 - (4) 事後評価の検証方法
※ 客観的な手法により検証ができる内容を記載すること。
- 4 事業実施体制
※ 本事業の実施体制について、コンソーシアムの全体の取りまとめ及び取組ごとの体制や各構

成員の役割分担が分かるよう記載すること（図も可）。なお、コンソーシアム外に協力を求める機関等があれば、協力機関として記載すること。

第3 事業の内容

1 対象とする品目・品種・用途

※ 用途は、加工、業務用、国内生食用、輸出用等について記載すること。

2 構築するモデルの規模（面積、果実生産量、販売量・販売額等）

3 実施する事業メニュー

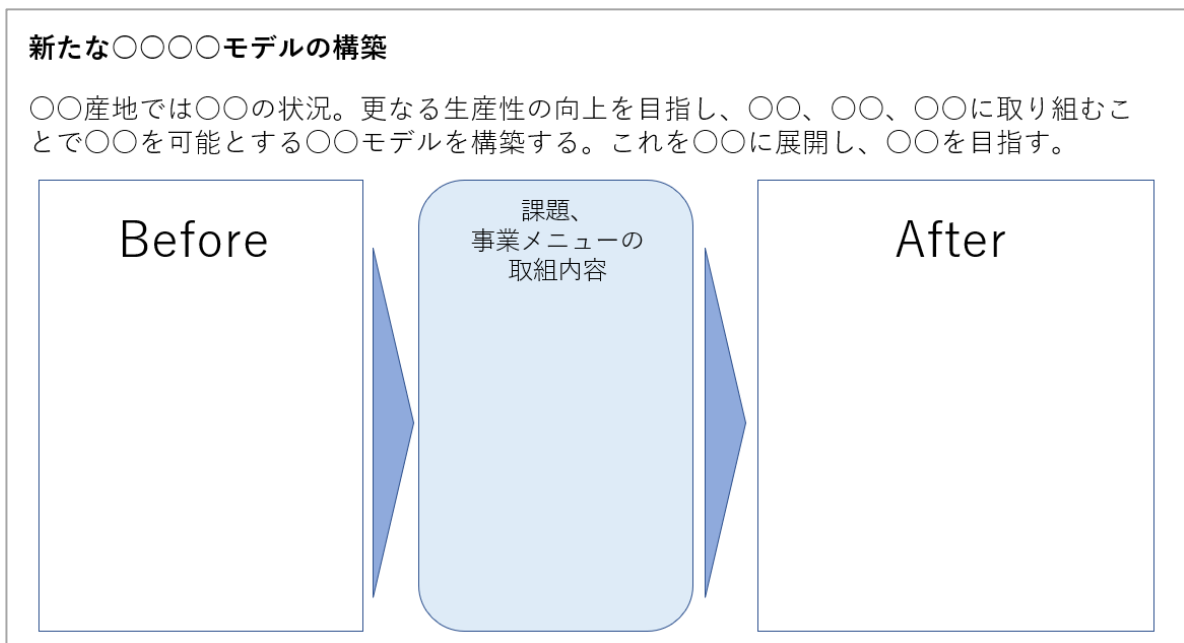
※ 目標達成に必要であり本事業で実施するメニューに○をすること。複数選択可。

事業メニュー	実施するもの
1 省力樹形や省力的な植栽方法の導入	
2 スマート農業技術を活用した生産・出荷・流通や労務管理の合理化	
3 加工・業務用等新たなマーケットの開発・拡大に向けた省力栽培技術や品種の導入	
4 サービス事業者等を活用した人材確保	
5 流通事業者や地域内外の他事業と連携した労働力の相互融通	
6 経営の多角化による通年雇用	

4 事業の具体的な内容

※ 新たな生産供給体制モデルの構築前と構築後の姿を示し、目標達成に必要な事業メニューのそれぞれの取組内容について、具体的に記載すること。

※ 加えて、以下のイメージを参考に、本事業の内容を横向き1枚にまとめ、添付すること。



5 生産・販売計画

※ 事業開始年度から目標年度までの各年度における生産・販売計画を記載すること。具体的には、年度ごとのコンソーシアム内の生産面積、単収、生産量、コンソーシアムの実需者における調達量、販売量・販売額等について記載すること。

6 普及計画

※ 生産供給体制モデルを普及させるための方策について、誰がいつ何を行うのかを具体的に記載すること。（都道府県事業との連携やコンソーシアムの実需者が産地に〇〇等のアプローチを行うなど、モデル普及のネックとなる課題に対応した普及計画を記載）

第4 事業全体の実施スケジュール

※ 事業メニュー及び取組内容ごとについて事業開始年度から目標年度までのスケジュールが分かるように記載すること。

※ 「事業実施1年目」「2年目」「3年目」「4年目以降」のそれぞれについて記載すること。

第5 事業の取組内容及び事業費

(単位:円)

区分		〇年度 (事業開始年度)	〇年度	〇年度	合計
1 検討会の開催等	総事業費				
	国庫補助金				
	自己資金				
	その他				
2 展示ほの設置	総事業費				
	国庫補助金				
	自己資金				
	その他				
合計	総事業費				
	国庫補助金				
	自己資金				
	その他				

注1 事業開始年度を含む3年以内について記載すること。

注2 第7の区分の取組内容ごとに記載し、必須の取組（検討会の開催等及び展示ほの設置）以外も実施する場合は適宜行を追加すること。

第6 本年度事業の取組内容

1 検討会の開催等（必須）

(1) 検討会の概要

※ 検討会の目的、内容等について記載すること。

(2) 検討会の構成

所属・役職	氏名	備考

(3) 検討会の開催時期及び内容

開催時期	検討内容	備考
○年○月		

(4) 成果の取りまとめや普及、情報発信等

実施時期	取組内容	備考
○年○月		

2 調査・分析

- ※ 実施する場合のみ記載すること。
- ※ 調査・分析の目的、内容等について具体的に記載すること。

3 テストマーケティング

- ※ 実施する場合のみ記載すること。
- ※ テストマーケティングの目的、内容等について具体的に記載すること。

4 技術研修

- ※ 実施する場合のみ記載すること。

(1) 研修の概要

- ※ 研修の目的、対象技術、内容等について記載すること。

(2) 研修の開催時期及び内容

実施時期	参集範囲・人数	内容	備考
○年○月			

5 展示ほの設置（必須）

(1) 展示用実証ほの概要

展示開始時期	所在地	品目・品種	展示ほ面積(a)	管理者	展示する植栽方式等の技術
○年○月					

注 実証ほを設置する場所ごとに記入すること。

(2) 視察対応、周知等

実施時期	取組内容	備考
○年○月		

6 システム導入

※ 実施する場合のみ記載すること。

※ システムやアプリ導入の目的、導入手段（構築、改良、既存サービスの利用等）、機能等について具体的に記載すること。

7 小規模園地整備

※ 実施する場合のみ記載すること。

※ 小規模園地整備の目的、整備内容、整備内容ごとの実施面積等について具体的に記載すること。

8 省力樹形や省力的な植栽方法等への転換

※ 実施する場合のみ記載すること。

(1) 転換の目的及び概要

※ 転換する目的、省力樹形・省力的な植栽方法の概要について具体的に記載すること。

(2) 転換の内容

改植・新植等	品目・品種	省力樹形・省力的な植栽方法等	面積(a)	管理者	備考

注 「改植・新植等」の欄は、実施する内容（改植、新植、幼木管理、高接ぎ等）を記載すること。

9 機械・設備のリース導入

※ 実施する場合のみ記載すること。

(1) リース内容

機械・設備名	仕様 製造会社名 型式	台数	金額(円)	管理者	保管・設置場所	リース予定 時期

注 対象機械が複数ある場合は、適宜、行を追加して機械・設備ごとに記載すること。

(2) 対象機械・設備の決定根拠

機械・設備名	リース物件価格 (千円)	リースする機械・設備の選定理由及び規模決定の根拠	備考

注1 「リース物件価格(千円)」の欄には、リースする機械・設備の販売業者により設定されている小売希望価格(設定されていない場合は一般的な実勢価格(税抜価格))を記載すること。

注2 「リースする機械・設備の選定理由及び規模決定の根拠」の欄の「規模決定の根拠」では機械・設備の能力を決定(導入する機械・設備の能力、台数、単価等)した計算過程をその根拠となる機械・設備の能力等の具体的な数値を用いて記載すること。

(3) リース機械・設備の納入業者の選定方法の計画

入札方式(いずれかに○)	指名業者選定の考え方	備考
一般競争入札・指名競争入札		

注 「指名業者選定の考え方」の欄は、一般競争入札以外の選定方法で業者を選定した場合、記載すること。

(4) 機械・設備のリース料等

リース期間	開始月～終了月(※1)	年月	～	年月	(月)	備考
	リース借受日から○年間(※2)				(年)	
リース物件取得予定価格(消費税抜き)	①				(円)	
リース期間終了後の残存価格(消費税抜き)	②				(円)	
リース料助成申請額	③				(円)	
リース諸費用(消費税抜き)	④				(円)	
消費税	⑤				(円)	
事業実施主体負担リース料(消費税込み)①-②-③+④+⑤					(円)	
リース料助成申請額③は、下記の算式のいずれか小さい額を記入すること(使用した算式に○を記入すること)。						
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> I リース物件価格 × リース期間 / 耐用年数 × 1/2 II (リース物件価格 - 残存価格) × 1/2 </div>						

注1 ※1及び※2については、いずれかを記入すること。

注2 リース事業者の見積書の写し(実績報告では契約書の写し)等を添付すること。

注3 複数の機械・設備をリース導入する場合、表を追加し、機械・設備ごとに記載すること。

第7 経費の配分及び負担区分

(単位:円)

区 分	総事業費 (A)+(B)+(C)	負担区分			備考
		国庫補助金 (A)	自己資金 (B)	その他 (C)	
1 検討会の開催等					
2 調査・分析					
3 テストマーケティング					
4 技術研修					
5 展示ほの設置					
6 システム導入					
7 小規模園地整備					
8 省力樹形や省力的植栽等への転換					
9 機械・設備のリース導入					
合 計					

注1 本年度事業分について記載すること。

注2 区分欄は、実施する取組分について記載することとし、不要な行は削除すること。

注3 備考欄には、消費税仕入控除税額を減額した場合は「減額した金額〇〇〇円」を、同税額がない場合は「該当なし」を、同税額が明らかでない場合には「含税額」を記入すること。

「該当なし」の場合は、以下のうち該当するものにチェックを入れること。

- 免税事業者
- 簡易課税制度の適用を受ける者
- 地方公共団体の一般会計
- 地方公共団体の特別会計、消費税法別表第三に掲げる法人（公共法人、公益法人等）又は人格のない社団・財団であって、当該事業年度における補助金等の特定収入割合が5%超となることが確実に見込まれるもの

注4 事業実施主体以外の団体が別途事業費を負担する場合には、備考欄にその団体名を記入すること。

注5 経費の詳細については、別添の経費内訳書に記載すること。

第8 収支予算（又は精算）

1 収入の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備考
			増	減	
国庫補助金					
自己資金					
その他					
合 計					

2 支出の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備考
			増	減	
産地構造転換パイロット事業(パイロット実証事業)					
合 計					

第9 本年度事業の完了予定（完了）年月日

第10 添付資料

- 1 組織及び運営についての規約等の写し、財務諸表
- 2 役員名簿、構成員名簿
- 3 導入する機械・設備のパンフレット・見積書等
- 4 本事業の一部を外部へ委託する場合は、その委託契約書（案）（又は写し）
- 5 生産供給体制モデルの図
- 6 経費内訳書
- 7 環境負荷低減チェックシート
- 8 審査基準の加算項目に該当する場合は、該当することが分かる資料

※ ①～③については、添付する資料の名称を記載すること。④については、本計画書中の該当項目を記載すること。

審査基準の加算項目		添付する資料名
① 地域計画	地域計画の目標地図に位置づけられた者がコンソーシアムに参画している。	
	事業を実施する地域において地域計画が策定されている。	
② みどりの食料システム法	第19条第1項に規定する環境負荷低減事業活動実施計画の認定を受けている又は交付決定までに認定を受ける見込みがある。	
	第21条第1項に規定する特定環境負荷低減事業活動実施計画の認定を受けている又は交付決定までに認定を受ける見込みがある。	
③ 水田農業高収益化推進計画	水田農業高収益化推進計画においてコンソーシアムの構成員が位置付けられている。	
④ スマート農業技術に対応した生産方式の変革に資する取組	スマート農業技術の導入及びこれに対応するための生産方式の変革に取り組む計画としている（例えば、省力樹形や省力的な植栽方法の導入と合わせて、ソフトウェアや自動運転機能付きの管理機の導入を行うといった場合）。	※本計画書中の該当項目を記載する。

9 その他農産局長又は地方農政局長等が必要と認める資料

※ 実績報告の際は以下の資料を添付すること。

- ・ 調査・分析、テストマーケティングを行った場合は、結果を取りまとめた報告書
- ・ システムやアプリの構築・改良を行った場合は、その概要が分かる資料

**果樹農業生産力増強総合対策
産地構造転換パイロット事業実施計画（兼実績報告）書
【全国推進事業】**

- 事業実施年度： 令和○年度
- 目標年度： 令和○年度

第1 事業実施主体の概要

団体名：
団体の代表者名：
事務局： ○○部○○課
担当者名：
住所： 〒
電話番号：
メールアドレス：

第2 事業概要

1 事業の目的及び取組概要

※ 事業の目的及び本事業によりどのような取組を行うのかを記載すること。また、本事業の概要を横向き1枚にまとめ、添付すること。

2 成果目標

(1) 目標年度
令和○年度

(2) 成果目標

※ 実施要領で定める成果目標に基づき設定すること。

(3) 成果目標の具体的な内容、目標数値の設定根拠

(4) 事後評価の検証方法

※ 客観的な手法により検証ができる内容を記載すること。

3 事業実施体制

※ 本事業の実施体制について、取組ごとの体制や役割分担が分かるよう記載すること。（図も可）

4 事業全体の実施スケジュール

※ 取組内容ごとのスケジュールが分かるように具体的に記載すること。

第3 取組ごとの内容

1 検討会の開催

(1) 検討会の概要

※ 目的、内容等について記載すること。

(2) 検討会の構成案

所属・役職	氏名	備考

(3) 検討会の開催時期及び内容

開催時期	内容	備考
○年○月		

2 研修会・交流会等の開催

(1) 研修・交流会等の概要

※ 目的、内容等について記載すること。

(2) 研修会・交流会等の開催時期及び内容

開催時期	参集範囲	内容	備考
○年○月			

3 実証コーディネート

※ パイロット実証事業の各コンソーシアムの取組の進捗管理や助言等の支援、コンソーシアム間の調整等について具体的に記載すること。

4 優良事例等の調査

※ 調査の目的、内容、対象、方法等について具体的に記載すること。

5 生産供給体制モデルの普及

※ 全国への普及に向けた資料の作成・公表、情報発信等の取組について、具体的に記載すること。

第4 経費の配分及び負担区分

(単位:円)

区 分	総事業費 (A)+(B)+(C)	負担区分			備考
		国庫補助金 (A)	自己資金 (B)	その他 (C)	
1 検討会の開催					
2 研修会・交流会等の開催					
3 実証コーディネート					
4 優良事例等の調査					
5 生産供給体制モデルの普及					
合 計					

注1 備考欄には、消費税仕入控除税額を減額した場合は「減額した金額〇〇〇円」を、同税額がない場合は「該当なし」を、同税額が明らかでない場合には「含税額」を記入すること。

「該当なし」の場合は、以下のうち該当するものにチェックを入れること。

- 免税事業者
- 簡易課税制度の適用を受ける者
- 地方公共団体の一般会計
- 地方公共団体の特別会計、消費税法別表第三に掲げる法人（公共法人、公益法人等）又は人格のない社団・財団であって、当該事業年度における補助金等の特定収入割合が5%超となることが確実に見込まれるもの

注2 事業実施主体以外の団体が別途事業費を負担する場合には、備考欄にその団体名を記入すること。

注3 経費の詳細については、別添の経費内訳書に記載すること。

第5 収支予算（又は精算）

1 収入の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備考
			増	減	
国庫補助金					
自己資金					
その他					
合 計					

2 支出の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額	本年度精算額	比較増減		備考
			増	減	
産地構造転換パイロット事業					
合 計					

第6 事業完了予定（完了）年月日

第7 添付資料

1 組織及び運営についての規約等の写し、財務諸表

- 2 役員名簿、構成員名簿
- 3 本事業の一部を外部へ委託する場合は、その委託契約書（案）（又は写し）
- 4 事業の概要の図
- 5 経費内訳書
- 6 環境負荷低減チェックシート
- 7 その他農産局長が必要と認める資料

※ 実績報告の際は、本事業の成果を取りまとめた報告書を添付すること。

別添 16-2 (VIの第9の1 関係)

番 号
年 月 日

農林水産省農産局長^{※1} 殿

〇〇農政局長 殿

〔 北海道にあつては、北海道農政事務所長
沖縄県にあつては、内閣府沖縄総合事務局長 〕

所 在 地
事業実施主体名
代 表 者 氏 名

令和〇年度果樹農業生産力増強総合対策のうち産地構造転換パイロット事業（パイ
ロット実証事業）の実施状況の報告について

持続的生産強化対策事業実施要領（令和4年4月1日付け3農産第3175号、3畜産第1993号農
産局長及び畜産局長通知）別紙3のVIの第9の1に基づき、関係書類^{※2}を添えて報告する。

※1：事業の範囲が複数の都道府県にわたるものについては、農産局長宛とすること。

※2：関係書類として、別添16-2別添を添付すること。

果樹農業生産力増強総合対策
産地構造転換パイロット事業実施状況報告書
【パイロット実証事業】

- 事業実施年度： ○年度
- 目標年度： ○年度
- 実施状況報告対象年度： ○年度（事業実施○年目）

第1 事業実施主体

コンソーシアム名：
コンソーシアムの構成員：
対象となる産地の市町村：
中核機関：

第2 成果目標の達成状況

1 生産供給体制モデルの構築

(1) 成果目標

※ 事業実施計画書から転記すること。

(2) 達成状況

※ 達成状況について具体的に記載すること。

2 労働生産性の向上

(1) 成果目標

※ 事業実施計画書から転記すること。

(2) 達成状況

指標	基準年 (○年度)	1年目 (○年度)	2年目 (○年度)	3年目 (○年度)	4年目 (○年度)	5年目 (○年度)	目標 (○年度)
労働 生産性 (万円/人)							

注1 実績の算出根拠となる資料を添付すること。

注2 必要に応じて年度の欄を追加すること。

第3 当該年度の事業の実施状況

※ 取組内容や進捗について具体的に記載すること。

第4 当該年度の取組の総評

第5 今後の課題と翌年度計画への反映状況

農林水産省農産局長^{※1} 殿

〇〇農政局長 殿

〔 北海道にあつては、北海道農政事務所長
沖縄県にあつては、内閣府沖縄総合事務局長 〕

所 在 地
事業実施主体名
代 表 者 氏 名

令和〇年度果樹農業生産力増強総合対策のうち産地構造転換パイロット事業
(〇〇〇〇〇^{※2}) の自己評価の報告について

持続的生産強化対策事業実施要領（令和4年4月1日付け3農産第3175号、3畜産第1993号農産局長及び畜産局長通知）別紙3のVIの第9の2に基づき、関係書類^{※3}を添えて報告する。

※1：パイロット実証事業のうち事業の範囲が複数の都道府県にわたるもの及び全国推進事業については、農産局長宛とすること。

※2：パイロット実証事業又は全国推進事業のいずれかを記載すること。

※3：関係書類として、パイロット実証事業については別添16-3別添1、全国推進事業については別添16-3別添2を添付すること。

果樹農業生産力増強総合対策
産地構造転換パイロット事業評価報告書
【パイロット実証事業】

- 事業実施年度： ○年度
- 目標年度： ○年度

第 1 事業実施主体

コンソーシアム名：
コンソーシアムの構成員：
対象となる産地の市町村：
中核機関：

第 2 成果目標の達成状況

1 生産供給体制モデルの構築

(1) 成果目標

※ 事業実施計画書から転記すること。

(2) 達成状況

※ 達成状況について具体的に記載すること。

2 労働生産性の向上

(1) 成果目標

※ 事業実施計画書から転記すること。

(2) 達成状況

指標	基準年 (○年度) ①	目標 (○年度) ②	目標年度の 実績 ③	達成率	備考
				(%)	
労働生産性 (万円/人)					

注 1 実績の算出根拠となる資料を添付すること。

注 2 達成率は、 $(③-①) / (②-①)$ を記載すること。

第 3 事業の実施状況

※ 事業全体の取組内容について具体的に記載すること。

第 4 取組の総評

※ 事業全体の総合評価として、本事業の実施により得られた成果（成果目標に関するもの以外を含む）や課題について記載すること。

果樹農業生産力増強総合対策
産地構造転換パイロット事業評価報告書
【全国推進事業】

- 事業実施年度： ○年度
- 目標年度： ○年度
- 事業実施主体：

第 1 成果目標の達成状況

(1) 成果目標

※ 事業実施計画書から転記すること。

(2) 達成状況

※ 達成状況について具体的に記載すること。

第 2 事業の実施状況

※ 事業全体の取組内容について具体的に記載すること。

第 3 取組の総評

※ 事業全体の総合評価として、本事業の実施により得られた成果（成果目標に関するもの以外を含む）や課題について記載すること。

農林水産省農産局長* 殿

〇〇農政局長 殿

(北海道にあつては、北海道農政事務局長
沖縄県にあつては、内閣府沖縄総合事務局長)

所 在 地
事業実施主体名
代 表 者 氏 名

令和〇年度果樹農業生産力増強総合対策のうち産地構造転換パイロット事業（パイ
ロット実証事業）の営農継続報告書

持続的生産強化対策事業実施要領（令和4年4月1日付け3農産第3175号、3畜産第1993号農
産局長及び畜産局長通知）別紙3のVIの第9の3に基づき、報告する。

第1 事業実施期間等

事業開始年度	事業完了年度	目標年度	本報告の対象年度

第2 改植・新植の内容

ほ場 番号	改植・ 新植	品目・品種	省力樹形・ 省力的な植栽方法等	面積 (a)	所在地	管理者	備考
①							
②							

注1 事業実施計画書の記載のうち、改植及び新植の取組内容を転記すること。

注2 管理者に変更がある場合は、変更前の内容を取消線で削除した上で、変更後の内容を記載すること。

第3 営農の状況

ほ場 番号	栽培管理の状況	樹体の生育状況	備考
①			
②			

注 各事項について具体的に記載すること。

第4 添付書類

- 1 各ほ場の状況が分かる画像（報告対象年度の翌年度の4月1日以降に撮影したもの）
- 2 その他農産局長又は地方農政局長等が必要と認める資料

※：事業の範囲が複数の都道府県にわたるものについては、農産局長宛とすること。